

# 海洋安全保障情報月報

2010年7月号



## 目次

### 2010年上半期の回顧

海洋治安  
軍事動向  
海洋境界  
外交・国際関係  
海運・造船・港湾  
海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他  
情報分析

### 2. 情報分析

- 2.1 2010年上半期の海賊行為と船舶に対する武装強盗事案（IMB報告書に見る特徴）
- 2.2 2010年上半期のアジアにおける海賊行為と武装強盗事案（ReCAAP報告書から）

### 2010年7月の主要事象

#### 1. 情報要約

- 1.1 海洋治安
- 1.2 軍事動向
- 1.3 海洋境界
- 1.4 外交・国際関係
- 1.5 海運・造船・港湾
- 1.6 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

リンク先 URL はいずれも、2010年7月末現在、アクセス可能なものである。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、酒井英次、友森武久、向和歌奈  
毛利亜樹、高田祐子

---

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。

## 2010 年上半期の回顧

**海洋治安**：国際海事局（IMB）は7月15日、2010年上半期（1月1日～6月30日）に世界で起きた海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。通報された2010年上半期の発生件数は196件であった。2010年上半期の発生件数は、2009年同期の発生件数240件（通年406件）に比し、かなりの減少となっている。これは、アデン湾における発生件数が2009年同期の86件に比し33件に激減したことによる。しかしながら、「アフリカの角」周辺海域のアデン湾、ソマリア沖（インド洋を含む）、紅海での発生件数が98件で、全体の70%近くを占めている。特に、報告書は、ソマリアの海賊による襲撃海域が、インド洋では東経69度を超え、南緯12度にまで拡大し、一部の襲撃事案は沿岸から1,000カイリ以上離れた海域で発生している、と警告している。

一方、ReCAAP 情報共有センター（ISC）は7月27日、2010年上半期（1月1日～6月30日）にアジアで発生した海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。報告書によれば、2010年上半期の発生件数は71件で、その内、既遂が58件、未遂が13件であった。過去3年間の発生件数は全体として減少傾向にあったが、2010年上半期は2009年同期の43件（既遂38件、未遂5件）に比して大幅増になった。報告書によれば、これは、バングラデシュ、インドネシア、南シナ海、そしてベトナムにおける事案の増加によるもので、南シナ海では、アナンバス諸島、ナトゥーナ諸島、マンカイ諸島及びスピ・ビスール諸島周辺海域が襲撃事案の多発海域となっている。ベトナムでは、南部のブンタウ錨泊地で多発している。（IMB と ReCAAP の2010年各上半期報告書については、本号2.情報分析参照。）

2010年上半期におけるソマリアの海賊事案では、以下のような特徴が見られた。3月に入って

ソマリアの海賊の活動が活発化するに伴って、EU 艦隊、NATO 艦隊、合同海賊対処部隊 CTF-151 が、積極的な海賊対処活動を展開し始めたことである。これらの艦隊に所属する各国海軍戦闘艦は、襲撃の通報を受けて襲撃現場に急行して、通常「母船」と2隻の小型ボートで行動する海賊グループを捉え、海賊容疑者を尋問し、発見した武器や装備を押収すると共に、「母船」と小型ボート1隻を破壊し、もう1隻に海賊容疑者を乗せて解放する、あるいはそのまま海賊容疑者を拘束するなどの対処方針を取っている。また、各国の海上哨戒機や艦載ヘリが「母船」と2隻の小型ボートで行動する海賊グループを発見すれば、付近の海軍戦闘艦に通報して、戦闘艦から発進した臨検チームが同様の措置を取る場合もあった。

また、3月の海賊事案で注目されたのは、パナマ籍船の貨物船が3月23日に海賊に襲撃された時、該船の武装警備チームが、襲撃した海賊に応戦し、4人を射殺した事案である。民間の警備要員が海賊容疑者を射殺したのは、恐らくこれが初めてと見られる。

4月には、韓国の船社が運航する VLCC、MT *Samho Dream* は4日、ソマリア沿岸東方970カイリのインド洋で、ソマリアの海賊にハイジャックされた。該船は1億7,000万米ドル相当のイラク原油を積載している。ソマリアの海賊による VLCC のハイジャックは、これが3隻目となった。

2010年上半期には、武力解放事案が3件あった。4月5日には、オランダ海軍のフリゲートが、ソマリア沿岸から東方500カイリの海域で海賊に乗り込まれたドイツ籍船のコンテナ船を救出する作戦を実施し、10人の海賊容疑者を拘束すると共に、13人の乗組員を無事保護した。5月6日には、ロシア海軍によるタンカーの武力救出があった。ロシア海軍対潜駆逐艦は、ハイジャックされたタンカーを強襲し、該船を解放すると共に、10人の海賊容疑者を拘束した。その後、ロシア海軍は7日、拘束した海賊容疑者10人を

海賊の小型ボートに乗せて釈放したが、彼らはソマリア沿岸に到着しなかった。ソマリアのプントランド自治区の治安部隊は6月3日、前日にアデン湾でハイジャックされた一般貨物船を急襲し、該船を解放した。また、武力解放ではないが、2月3日にソマリアの海賊にハイジャックされた、北朝鮮籍船の一般貨物船の乗組員が6月2日、海賊から該船を奪回するという事案もあった。

EU 外務理事会は6月14日、EUの海賊対処作戦、Operation Atalanta の継続期間を更に2年間、2012年まで延期することに合意すると共に、海賊の活動海域の拡大に対処するために、哨戒海域を原則的に東と南に拡大することにも合意した。

一方、海賊処罰の体制整備についても、新たな動きが見られた。国連安保理は4月27日、決議1918を全会一致で採択し、当該地域諸国を含むあらゆる国家に対し、それぞれの国内法の下で海賊を刑事罰として罰し、有罪判決を受けた者を収監することを要請した。また、オランダの法廷は6月17日、5人のソマリア人海賊容疑者に対して、懲役5年（求刑は懲役7年）の有罪判決を下した。この法廷は、欧州で初めてのソマリアの海賊容疑者に対する裁判であった。

**軍事動向**：米国防省は1月29日、パトリオット PAC3 地对空ミサイル・システムなど、総額64億ドルの台湾への武器売却を議会に通告し、中国政府にも通知した。これに対して、中国外交部報道官は1月30日、米中間の軍事交流計画と安保対話を延期する、と発表した。

米国防省は2月1日、オバマ政権で初めての「4年毎の国防計画の見直し報告書」(Quadrennial Defense Review Report: QDR2010) を公表した。QDR2010は、① テロとの戦いにおける勝利、② 紛争の予防と抑止、③ 敵の打破と多様な緊急事態対処のための備え、④ 全志願制軍隊の維持と強化、を優先順位としている。一方、ロシアのメドベージェフ大統領は2月5日、「ロシア連邦

軍事ドクトリン」を大統領令によって承認し、翌6日、その内容を公表した。この「文書」は、2000年4月21日付の「ロシア連邦軍事ドクトリン」を、10年ぶりに更新したものである。

韓国海軍は2月1日、機動戦闘艦隊を発足させた。この艦隊は、韓国最初のイージス艦、「世宗大王」と6隻のKDX-II級駆逐艦(排水量4,500トン)で構成される。この艦隊は2個小艦隊で編成され、釜山と鎮海に配備される計画である。イージス艦の2番艦、「栗谷李珥」が2010年夏に就役すれば、各小艦隊はイージス艦と3隻のKDX-II級駆逐艦で構成されることになる。

米太平洋海兵隊のスタルダール司令官は2月17日、東京での講演で、在沖縄米軍基地は戦略的に必要であり、「同盟における日本防衛の義務を果たすために、迅速な展開が可能な遠征部隊として、またハワイとインドの間における唯一の前方展開地上部隊として、海兵隊は、沖縄に基地を維持しなければならない、しかも地上部隊の近傍にヘリ部隊を持っていない」と指摘した。

「米科学者連盟」の専門家、クリステンセン研究員は4月19日、中国海軍が東海艦隊の潜水艦基地の近くに潜水艦消磁施設を建設したことを明らかにした。同研究員によれば、この消磁施設は、浙江省寧波市の南東約40キロにあるKilo級潜水艦基地から10キロ足らず離れた場所にある。東海艦隊の消磁施設は中国海軍の2番目の施設で、最初の消磁施設は海南島の南海艦隊榆林基地付近で確認されている。SSBNを含む中国の原子力潜水艦は北海艦隊と南海艦隊に所属しているが、東海艦隊には原潜はないことから、同研究員は、北海艦隊にも間もなく消磁施設が建設されると見ている。中国海軍の潜水艦を含む戦闘艦10隻は、4月初めから20日過ぎまで、東シナ海や沖ノ鳥島西方海域で演習を行った。この演習は、内外の注目を集めた。

韓国海軍哨戒艦「天安」が3月26日に沈没した原因を調査していた、韓国軍・民間合同調査団は5月20日、「北朝鮮で製造された魚雷の攻

撃により沈没した」という結論を正式発表した。合同調査団の尹徳龍共同団長は記者会見で、「『天安』は魚雷による水中爆発で発生した衝撃波やバブルジェットにより切断され、沈没した。武器体系は北朝鮮で製造された高性能爆薬 250 キロ規模の魚雷と確認された」と述べた。

ロシアの新型攻撃型原潜、*Yasen / Graney* 級の 1 番艦、*Severodvinsk* は 6 月 17 日、建造開始から 17 年ぶりに進水した。ロシア海軍は、*Yasen / Graney* 級原潜を少なくとも 6 隻建造する計画で、2 番艦、*Kazan* の建造は 2009 年に始まっているという。

米韓両国首脳は 6 月 26 日、カナダのトロントで会談し、朝鮮半島有事における戦時指揮権を韓国軍に移譲する時期を、当初の 2012 年 4 月から 2015 年まで延期することに合意した。

**海洋境界**：ベトナム外務省報道官は 1 月 2 日、ベトナムは常時、西沙諸島と南沙諸島の主権を確認してきているとして、中国の「海島保護法」がベトナムのこれら諸島に対する主権に影響を及ぼすものではない、と語った。一方で、中国は今後 10 年間で、海南省を一大観光地にすると共に、周辺海域の石油・天然ガス開発を計画している。海南島は中国の領土だが、中国が海南省の行政区域に含むと主張している周辺海域の西沙諸島、南沙諸島の大部分は領有権紛争の対象となっている。中国の衛留成・海南省党委員会書記は 1 月 6 日、この計画がアジアのフラッシュ・ポイントといわれる周辺海域の領有権紛争を悪化させるとの懸念を一蹴した。ベトナム外務省報道官は 5 月 6 日、中国が発表した南シナ海（ベトナムの呼称では「東海」）における漁業禁止措置（5 月 16 日から 8 月 1 日まで実施）に対して、ベトナムの主権を侵害するものであり、「全く効力がない」と反駁した。また、ベトナム海軍のグエン・ヴァン・ヒエン司令官は 5 月 25 日、ベトナム漁民に対して、中国の漁業禁止措置があっても、通常通り出漁するよう要請した。同司令官は、「漁民が安全に操業できるこ

とを担保する具体的な手段は、海軍がベトナムの主権的管轄海域を頻繁に哨戒することである」と述べ、今後、哨戒活動を強化していくことを明らかにした。

新華社通信など、中国メディアの報道によると、東海艦隊に所属する測量船部隊は 1 月 4 日、東シナ海における外礁脚の北 33 00.9 度、東 121 383.4 度の地点に、石油資源が豊富な領域において領海の基点を示すための 13 番目の構築物となる灯台を建設した。

参議院本会議は 5 月 26 日、日本の最南端や最東端などの EEZ の拠点となる特定の離島における港湾整備などを地方自治体に代わって国が整備する法案を、全会一致で可決した。この法律は公布後、3 か月以内に施行される。

ロシア・ノルウェー両国は 4 月 27 日、ヨーロッパ北部大陸棚が伸びるバレンツ海と北極海の一部を巡る、40 年間に及ぶ境界画定問題の解決に合意した。1980 年代のロシアの地震探査によって確認された多くの石油・天然ガス田は、今回合意された境界線の両側にまたがっている。この合意によって、この海域における両国の石油と天然ガス資源の開発に弾みがつくと見られる。

**外交・国際関係**：2 月 15 日付の米紙、*the New York Times* と 17 日付の米 UPI 通信は、南アジアにおける中国の港湾建設がインドの懸念を高めているとする、論説を掲載した。インドは 6 月 9 日、スリランカとの間で、スリランカの主要なインフラ建設計画への借入金や文化交流の強化まで、広範な分野にわたる一連の経済外交協力に関する協定に調印した。インドのスリランカ経済支援の大部分が、少数派のタミール民族が支配し、長年の内戦で荒廃した、北部地域に投入される。インドはまた、タミール民族支配の中心都市、ジャフナに加えて、ハンバントータにも領事館を開設する。ハンバントータでは、中国政府の支援で深水港が建設されている。インドの専門家は、インド洋の支配を巡る「ニュー

ー・グレートゲーム」は今後 10 年の中印関係の主題であり、スリランカは地理的にその中心にあるとして、スリランカを巡るインドと中国の援助合戦の動向に注目している。

6 月 17、18 日の両日、米国ワシントン D.C. において、「日米修好 150 年・日米安全保障条約 50 周年記念シンポジウム」が、海洋政策研究財団、日本財団、CNAS (Center for a New American Security) 及び米国笹川平和財団の共催によって開催された。シンポジウムでの議論は、共同議長を務めたリチャード J. ダンジグ CNAS 会長と秋山昌廣海洋政策研究財団会長がとりまとめ、シンポジウム終了時に共同議長声明を発表した。本共同宣言は、7 月 9 日に外務大臣および防衛大臣に手渡された。

**海運・造船・港湾**：中国の広州中船竜穴造船有限公司が「南沙竜穴造船基地」で建造した最新鋭の VLCC、「新埔洋」は、1 月後半に処女航海に出発した。「新埔洋」は 30 万 8,000DWT、長さ 333 メートルで、研究開発、設計及び建造は全て国産技術によるものである。

バングラデシュのハシナ首相は 1 月 16 日、チッタゴン・モングラ港を、周辺の道路、鉄道と共に整備し、同港から道路と鉄道によって、インドとの物流の増加を図る計画に着手することを明らかにした。他方、インドの建設会社、Essar Projects Limited は 5 月 14 日、インド外務省との間で、ミャンマーにおける 'Kaladan Multi Modal Transit Transport Project' 計画の内、Port and Inland Water Transport 計画を担当する契約を結んだ。この契約によって、ミャンマーのカラダン川沿いの物量を促進するために、シットウェと（内陸部の）パツレワに 2 本の栈橋が建設されると共に、カーゴ・バージも建造される。この計画は、インド北東部諸州とインド本土との物流を促進するために、インド政府が実施するもので、36 か月以内の完工を目指している。

日本政府とインド・グラジャート州政府は 2

月 6 日、同州のパウナガルにある、Alang 造船所改修のための覚書 (MOU) に調印した。日本は MOU に基づいて、Alang 造船所を、国際基準を満たす造船所に改修するために技術移転と財政支援を実施する。

ベトナムの SP-PSA 国際港は 2 月 12 日、Maersk Line の MV *Albert Maersk* の試験的入港受入に成功した。MV *Albert Maersk* は、長さ 362 メートル、10 万 9,000DWT (8,272TEU) で、ベトナム港湾史上、船の長さ、DWT、コンテナ積載能力のいずれにおいても、これまでで最も大きい船舶である。一方、国土交通省はベトナム交通運輸省との間で、ハノイで 3 月 9 日と 10 日の両日、「第 1 回日越分野別協議 (港湾、鉄道)」と「日越港湾セミナー」を開催した。この協議で、日本側はカイメップ・チーバイ港とラックフェン港の建設や関連インフラの整備に資金を供与することで合意した。また、欧州最大の STX Europe は 4 月 28 日、ベトナムの Vung Tau に造船所を開所すると共に、建造第 1 船の命名式を行った。同造船所は、最高の国際水準を満たすベトナムで最新の造船所で、フル稼働すれば中型船舶を年間 4 隻建造可能である。

3 月 9 日付けの韓国紙、*The Korea Herald* によれば、北朝鮮は最近、ロシアに羅津港を 50 年間使用する権利を付与すると共に、中国に対して 2008 年に調印された 10 年間の同港使用权を更に 10 年間延長した。

インドネシアの港湾局は 5 月 7 日、ジャカルタ・タンジュンプリオク港外に、大規模なコンテナ・ターミナルを建設する計画を発表した。日本の JICA は現在、フィージービリティー・スタディーを実施している。建設が完了すれば、新ターミナルは大型コンテナ船の接岸が可能になり、年間のコンテナ取扱量は 1,000 万 TEU になるといふ。

英海軍水路部 (UKHO) は 6 月 7 日、中国沿岸部をカバーした AVCS (Admiralty Vector Chart Service) による海図を完成した、と発表した。AVCS の利用者は、珠江までの中国本土

沿岸、海南島沿岸、そして上海、深川及び青島などの主要港をカバーした、電子海図へのアクセスが可能になる。

韓国の韓進海運は 6 月 22 日、最初の 10,000TEU 級コンテナ船、MV *Hanjin Korea* を受領した。該船は、サムソン重工で建造される 5 隻の 10,000TEU 級コンテナ船の最初の船である。該船は 7 月初め頃から、アジア・欧州航路に投入されることになっている。残りの 4 隻は、2011 年末までに受領することになっている。

#### 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他：

米海軍は 1 月 22 日、農務省との間で、海軍艦艇でのバイオ燃料、再生可能エネルギー利用の促進に関する協定に調印した。この協定の戦略的狙いは、ガソリン代を節約すると共に、外国のエネルギー資源への依存を減らすことである。

スウェーデンのストックホルム国際平和研究所 (SIPRI) は 3 月 1 日、夏期の数カ月間、海氷が溶けて航行可能になる北極海への進出に向けて、中国が準備を進めているとの報告書を公表した。報告書を作成した、SIPRI の研究員は、「中国は、海氷のない北極海がもたらす商業的、戦略的機会について、徐々に、だが着実に認識を高めつつある」と指摘している。

英国の科学週刊誌、*the New Scientist* 6 月 5 日号によれば、新たな地質学研究の結果は、太平洋の海拔の低い、ツバル、キリバス、ミクロネシア連邦などの島々は、サンゴの破片や堆積物によって大きくなっているが、沈んではないことを明らかにしている。この研究結果では、これらの島々は 100 年後も存在していると予測されているが、その多くが居住可能かどうかについては定かでないという。

**情報分析：**近年、グローバルな安全保障環境において、「グローバルコモンズの自由」対「アクセス拒否」という対立が生じつつある。「グローバルコモンズ」とは、海洋、上空、宇宙そしてサイバー空間の 4 つを人類の共有物と看做し、

それらに対する自由なアクセスを原則とする概念である。一方、「アクセス拒否」とは、国家が国益の観点から特定の明確なあるいは曖昧な形で排他的空間領域を設定し、その領域への他国のアクセスを制限し、あるいは拒否する戦略構想をいう。3 月号の情報分析では、『『グローバルコモンズ』を巡る新たな戦略構造』と題して、地政学と国際政治における現実主義の視点から分析を試みた。

中国海軍の外洋進出活動が近年次第に活発化してきている中で、米誌、*The Atlantic* の記者で CNAS のシニアフェローであるロバート・カプランは、米誌、*Foreign Affairs*, May / June に、“The Geography of Chinese Power” と題する、興味深い論文を発表した。この中で、カプランは、地政学的視点から、中国の海洋進出の背景を論じ、今や「東半球」に「大中華圏」が形成されつつあり、その推進力が中国海軍であるとしている。4 月号の情報分析では、カプラン論文の要点を紹介しながら、中国の海洋進出が持つ地政学的意味合いと日本の安全保障への含意について検討した。

他方、海洋パワーとしての米国にとって、太平洋は、海軍力のバランス如何によって、米国にとって有利な海域ともなり、また不利な海域ともなり得る。従って、米国にとって、中国の海洋への進出に対抗する上で、海軍力の整備が重要であることは言うまでもない。米海軍は 2010 年 2 月、今後 30 年間にわたる長期建艦計画 (FY2011 計画) を議会に提出した。これに対して、米議会予算局 (CBO) は 5 月、FY2011 計画を特に予算面から評価した報告書を公表した。6 月号の情報分析では、これらに基づいて、米海軍の長期建艦計画の概要を紹介した。

## 2010年7月の主要事象

**海洋治安：**7月のソマリアの海賊によるハイジャック事案は1件のみであった。ギリシャの船社が運航するマーシャル諸島籍船のケミカルタンカー、MT *Motivator* (13,065DWT) は5日、バブエルマンデブ海峡でソマリアの海賊にハイジャックされた。一方で、ハイジャック船の解放が3件あった。ソマリアの海賊は19日、ケニア籍船の漁船、FV *Sakoba* (3月3日にインド洋でハイジャック) とマーシャル諸島籍船のケミカルタンカー、MT *UBT Ocean* (3月5日にマダカスカル沖でハイジャック) を解放した。28日には、3月23日にソマリア沿岸沖でハイジャックされた、トルコのばら積船 (マルタ籍船)、MV *Frigia* (35,300DWT) を解放した。

中国海軍の第6次派遣部隊はアデン湾西部に到達し、14日に第5次派遣部隊と合流し、16日に正式に任務を交代した。第5次派遣部隊のミサイル駆逐艦、「広州」とミサイル護衛艦、「巢湖」は19日、同海域を離れ、エジプト、イタリア、ギリシャ、ミャンマーなどへの友好訪問に出発した。なお、8日付の解放軍報によると、中国海軍の補給艦、「微山湖」は、アデン湾・ソマリア沖における第1次、第2次、そして第5次派遣部隊に参加し、同海域での任務期間が累計で1年に達した。

インドは5日、モーリシャスとの間で、沿岸哨戒艇を供与し、津波の早期発見システムに関する協力を強化する、一連の協定に調印した。更にインドは19日、セイシェルとの間で、インド洋海域における海賊活動の拡大に対処するために、協力を強化することで合意した。インドは、Dornier 海上哨戒機1機と海上哨戒用のヘリコプター、Chetak 2機をできるだけ早期に供与する。

セイシェル最高裁判所は26日、自国の沿岸警備隊巡視船の乗っ取りを企て失敗した11人の被告人に、懲役10年の有罪判決を宣告した。セイシェルには、裁判待ち、あるいはソマリアへの移送待ちの海賊容疑者が他に29人いる。これより先、セイシェルと米国は14日、海賊容疑者と押収品の引渡に関する了解覚書 (MOU) に調印した。

商船三井所有のマーシャル諸島籍船原油タンカー、MT *M Star* (160,292GRT) は、千葉に向けて航行中、現地時間28日00時30分頃、ホルムズ海峡西方海域のオマーン領海内において、外部からの攻撃が原因と疑われる爆発により、船体が損傷した。該船の乗組員は31人で、軽傷1名を除き負傷者はなく、油等の流出もない。現在、アラブ首長国連邦のフジャイラ港で原因究明中である。

**軍事動向：**この分野では、中国、ロシア及び米韓両国の軍事演習が注目された。中国海軍海賊対処第6次派遣部隊は3日、南シナ海のインドネシア領ナトゥーナ諸島周辺海域で、揚陸艦、「崑崙山」が、同艦初めてとなる「遠海」における高速パトロール艇の発艦訓練を実施した。また、5日には、「崑崙山」からエアクッション艇の発艦、訓練海域を航行している商船と共に模擬エスコート訓練などを行った。エアクッション艇は2009年12月に進水して以来、初めての遠海における訓練であるという。中国海軍東海艦隊は6月30日から7月5日まで、浙江省沖合の東シナ海において数十隻の艦艇と十数機の航空機を動員した、海空部隊の実働演習と実弾射撃演習を実施した。更に、南海艦隊が組織する海軍の多兵科合同実弾演習が26日、南シナ海で行われた。中央軍事委員・総参謀長の陳炳徳が演習を視察し、中央軍事委員・海軍司令員の呉勝利も同席した。同演習には北海、東海、南海艦隊の主力駆逐艦が参加し、「複雑な電磁環境」において、海に向けた長距離精密攻撃、航空系の制空作戦、そして複雑な電磁環境における水上艦隊の防空などの訓練を行った。

ロシア海軍の北方、黒海及び太平洋の各艦隊は、シベリアと極東地域で6月30日から7月8日まで実施された大規模な軍事演習、Vostok-2010 演習に参加した。演習には数十隻の戦闘艦艇と支援艦艇が参加しており、北方及び黒海艦隊からは、それぞれの最大戦闘艦である、誘導ミサイル巡洋艦、the *Pyotr Veliky* と the *Moskva* が参加した。

米韓両国は25日、合同軍事演習、Invincible Spirit を日本海で開始した。マレン米統合参謀本部議長は演習に先立って、「この演習の狙いは、米韓関係が極めて強力であることを確認すると共に、北朝鮮に対して、彼らの行為が国際規範に完全に違反し、全面的に受け入れられないものであるとのメッセージを伝えることにある」と語った。4日間にわたる演習では、火力を誇示するために、両国から、米空母、USS *George Washington* を含む約20隻の艦艇、人員8,000人、F-22戦闘機を含む航空機約200機が参加した。

7月8日付の米誌、*Time* の報道によれば、米海軍の *Ohio* 級巡航ミサイル潜水艦 (SSCN) 3隻が6月28日、中国近海に同時に出現した。*Ohio* 級巡航ミサイル潜水艦は、同級弾道ミサイル潜水艦 (SSBN) を最大154基の Tomahawk 巡航ミサイルと60人の特殊任務部隊要員搭載型に改装したものである。この日、中国は、最大462基の巡航ミサイルに取り囲まれたことになった。

**海洋境界：**日本政府は13日、日本の排他的経済水域 (EEZ) の権益を守るために離島保全を図る、「低潮線保全・拠点施設整備法」に基づく基本計画を閣議決定した。同法で「特定離島」に指定された日本最南端の沖ノ鳥島、最東端の南鳥島に港湾施設を整備して拠点化し、希少金属などの資源開発や漁業活動を活発化する。

**外交・国際関係：**クリントン米 국무長官は23日、ハノイで開催された ASEAN 地域フォーラム (ARF) 閣僚会議終了後の会見で、南シナ海を巡る米国の立場について、「航行の自由、アジアの海洋コモンズに対する自由なアクセス、そして南シナ海における国際法規の遵守は、米国の国益である」と強調した。クリントン長官の発言に対して、「南シナ海問題を国際化したり、多国間問題にしたりすれば、どうなるか。問題を悪化させるだけで、解決を一層困難にするだけである」(外交部報道官)などと、反駁している。

**海運・造船・港湾：**2日付けの Fairplay Daily News の報道によれば、米議会はこのほど、クルーズ船乗客の船外落下や船舶襲撃事案に対処するために、the Cruise Vessel Security and Safety Act of 2010 を可決した。オバマ大統領が署名すれば、この法律は、1人以上の米国人を乗せて米国の港に入港する全てのクルーズ船に適用されることになる。大統領の署名による発効後18カ月以内に、クルーズ船運航会社は、全ての ship rail がデッキからの高さが少なくとも42インチ (102センチ) あること、全ての個室とクルー・キャビンには覗き窓を設置することなどが義務付けられる。違反した場合は、1日当たり2万5,000米ドルの罰金が課され、また米国の港への入港を禁止することもできる。オバマ大統領は27日、the Cruise Vessel Security and Safety Act of 2010 に署名した。

13日付の Xinhua が報じるによれば、中国の国営海運大手、中国遠洋運輸集団 (COSCO) の子会社で港湾管理会社、COSCO Pacific はこのほど、ギリシャの首都アテネ近郊のコンテナ港、ピレウス港の管理運営権を35年間取得するリース契約を、総額42米億ドルで取得した。6月に締結された契約によれば、現在のコンテナ処理施設を改善すると共に、新コンテナ埠頭を建設することで、同港の貨物処理能力を約3倍に高めるために、7億700万米ドルを投資する。COSCO は、

ピレウス港を欧州最大のアムステルダム港に匹敵するコンテナ・ハブ港にすることを狙いとしている。

**海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他：**台湾の流出油回収用大型タンカー、*MT A Whale* (319,869DWT) は、3日からメキシコ湾で流出原油の回収実験を開始した。該船は、12本の吸水口で海水を汲み上げ、海水から原油を分離し、浄化した水だけをメキシコ湾に戻す機能を持ち、1日当たり2,100万ガロンの汚染海水浄化能力を持つ。

26日付の *Shiptalk* によれば、世界最大の海運会社、*Maersk* の貨物船は現在、130年以上も前のクリッパー、*Cutty Sark* もより遅い船速で航行している。2年前から多くの海運会社が、通常の20~25ノットから、12ノットの「減速航行」を採用している。減速航行によって、燃料消費と排気ガスは30%削減され、*Maersk* は、減速航行を始めてから、6,500万ポンド以上の燃料費を節減できたと見られる。*Maersk* によれば、20%の減速航行を採用することで、1カイリ当たり40%の燃料節減となり、ここ数年でCO<sub>2</sub>削減の最も重要な措置となっているという。

**情報分析：**7月号では、国際海事局 (IMB) と ReCAAP 情報共有センター (ISC) が公表した、2010年上半期 (1月1日~6月30日) における海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を取り上げた。IMBは7月15日、クアラルンプールにある海賊通報センター (Piracy Reporting Centre) を通じて、2010年上半期 (1月1日~6月30日) に世界で起きた海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。分析1では、IMB 上半期報告書から見た、2010年上半期の海賊行為と船舶に対する武装強盗事案の特徴を取り纏めた。

ReCAAP 情報共有センターは7月27日、2010年上半期 (2010年1月1日~6月30日) にアジアで発生した海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。分析2では、ReCAAP 報告書から見た、2010年上半期のアジアにおける海賊行為と船舶に対する武装強盗事案の態様と傾向を取り纏めた。

# 1. 情報要約

## 1.1 海洋治安

7月5日「ソマリアの海賊、バブエルマンデブ海峡でギリシャ船をハイジャック」(EU NAVFOR Press Release, July 5, and BBC News, July 5, 2010)

ギリシャの船社が運航するマーシャル諸島籍船のケミカルタンカー、MT *Motivator* (13,065DWT) は5日、バブエルマンデブ海峡でソマリアの海賊にハイジャックされた。

記事要旨：ソマリアの海賊は5日、紅海南部のバブエルマンデブ海峡北方約50カイリの海域で、ギリシャの船社が運航するマーシャル諸島籍船のケミカルタンカー、MT *Motivator* (13,065DWT) をハイジャックした。該船は4日に海賊に小型火器で襲撃されているとの通報があった後、消息を絶ち、5日にハイジャックが確認された。該船の積荷は潤滑油で、乗組員は18人、全てフィリピン人である。

記事参照：MT MOTIVATOR hijacked in the southern Red Sea

<http://www.eunavfor.eu/2010/07/mt-motivator-hijacked-in-the-southern-red-sea/>



MT *Motivator*



Attack Position

Source: Left: EU NAVFOR Press Release, July 5, 2010

Right: [http://3.bp.blogspot.com/\\_E-QOnTGFX\\_o/TDIIy61rGrI/AAAAAAAAAKB4/d04rk2FL-y0/s1600/Capture.JPG](http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/TDIIy61rGrI/AAAAAAAAAKB4/d04rk2FL-y0/s1600/Capture.JPG)

7月5日「インド、モーリシャスに哨戒艇を供与」(New Kerala, July 5, 2010)

インドは5日、モーリシャスとの間で、沿岸哨戒艇を供与し、津波の早期発見システムに関する協力を強化する、一連の協定に調印した。

記事要旨：インドのクリシュナ (S.M Krishna) 対外問題担当国務相は訪問中のモーリシャスで5日、モーリシャスとの間で、沿岸哨戒艇を供与し、津波の早期発見システムに関する協力を強化する、一連の協定に調印した。哨戒艇は、インドが1,000万米ドルを拠出し、モーリシャスに4,850万米ドルを貸与して、コルカタの造船所で建造される。モーリシャスはインド海軍にとって戦略的に極めて重要な地理的位置にあり、インドはこれまで、同国と間で外交的関係や海軍協力を強化してきた。インド海軍は6月、同国の沿岸警備隊に対する、海賊対処や海洋阻止作戦に関する訓練を終えたばかりである。

記事参照：India to supply patrol ship to Mauritius

<http://www.newkerala.com/news/fullnews-140271.html>

**7月8日「中国海軍補給艦『微山湖』、海賊対処任務期間1年に」(解放軍報電子版、アデン湾、July 8, 2010)**

8日付の解放軍報によると、中国海軍の補給艦、「微山湖」は、アデン湾・ソマリア沖における海賊対処第1次、第2次、そして第5次派遣部隊に参加し、同海域での任務期間が累計で1年に達した。

記事要旨：8日付の解放軍報によると、中国海軍の補給艦、「微山湖」は、アデン湾・ソマリア沖における海賊対処第1次、第2次、そして第5次派遣部隊に参加し、同海域での任務期間が累計で1年に達した。同艦は2009年2月23日にアデン港に入港、中国海軍の艦艇として初めて海外港での補給を実施し、これにより洋上での随伴形式による補給と定期的寄港による補給の組み合わせを確立した。

記事参照：原文は中国語

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/08/content\\_32744.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/08/content_32744.htm)

**【関連記事】****「中国海軍第6次派遣部隊、アデン湾西部にて第5次派遣部隊と合流・護衛任務を交代」(解放軍報電子版、アデン湾、July 15, July 17, July 20, 2010)**

中国海軍第6次派遣部隊はアデン湾西部に到達し、7月14日に第5次派遣部隊と合流し、16日に正式に任務を交代した。第5次派遣部隊のミサイル駆逐艦、「広州」とミサイル護衛艦、「巢湖」は19日、同海域を離れ、エジプト、イタリア、ギリシャ、ミャンマーなどへの友好訪問に出発した。

記事要旨：中国海軍第6次派遣部隊はアデン湾西部に到達し、7月14日に第5次派遣部隊と合流し、16日に正式に任務を交代し、第5次派遣部隊は19日、帰途についた。第5次派遣部隊指揮官の張文旦と政治委員の陳儼は7月14日、同海域の状況、護衛の実施状況、護衛方式、アデン湾の海賊活動の特徴と規律などを第6次派遣部隊に引き継ぎ、共同護衛を開始した。報道によると、第5次派遣部隊は3月15日にアデン湾・ソマリア海域に到着して以来、588隻の国内外の船舶に対し100%の安全を確保し、中国海軍のなかで護衛船舶数が最多となった。16日、第6次派遣部隊が正式に護衛任務を引き継いだ。護衛方式、護衛範囲は第5次派遣部隊と基本的に同様に、必要に応じて調整を行うという。第5次派遣部隊のミサイル駆逐艦、「広州」とミサイル護衛艦、「巢湖」は19日、同海域を離れ、エジプト、イタリア、ギリシャ、ミャンマーなどへの友好訪問に出発した。

31日付の新華社報道によると、第5次派遣部隊の「広州」と「巢湖」は現地時間の7月30日、エジプトへの友好訪問を終えた。訪問期間において、第5次派遣部隊指揮官の張文旦少将、政治委員の陳儼少将は、エジプト海軍の参謀長や地方首長を訪問した。一方、同派遣部隊の兵員は、エジプト海軍の護衛艦を訪問した。(新華社、July 31, 2010)

記事参照：原文は中国語

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/15/content\\_33345.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/15/content_33345.htm)

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/17/content\\_33500.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/17/content_33500.htm)

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/20/content\\_33792.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/20/content_33792.htm)

[http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/31/content\\_13943276.htm](http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/31/content_13943276.htm)

**7月14日「セイシェル・米、海賊容疑者及び押収品の引渡し協定に署名」(eTurboNews, July 15, 2010)**

セイシェルと米国は14日、海賊容疑者と押収品の引渡しに関する了解覚書(MOU)に調印した。

記事要旨：セイシェルと米国は 14 日、海賊容疑者と押収品の引渡に関する了解覚書 (MOU) に調印した。MOU は、西インド洋、アデン湾及び紅海で拘束した海賊容疑者を押収品の引き渡し条件を規定したもので、地域的安全保障を強化するための両国間の協力の成果である。同様の MOU について、モーリシャス、ケニア及びタンザニアとの間でも交渉中である。

記事参照：Seychelles and the USA sign piracy agreement

<http://www.eturbonews.com/17292/seychelles-and-usa-sign-piracy-agreement>

### 7 月 19 日「インド・セイシェル、インド洋における海洋安全保障協力強化に合意」(WAVE Maritime Newsletter for Seafarers, July 19, 2010)

インドとセイシェルは 19 日、インド洋海域における海賊活動の拡大に対処するために、協力を強化することで合意した。インドは、Dornier 海上哨戒機 1 機と海上哨戒用のヘリコプター、Chetak 2 機をできるだけ早期に供与する。

記事要旨：インドとセイシェルは 19 日、インド洋海域における海賊活動の拡大に対処するために、協力を強化することで合意した。インドは、セイシェルの要請に応じて、同国の EEZ 内における哨戒活動を支援すると共に、同国の能力強化にも協力する。インドは既に、セイシェルの国防関連分野の計画に 500 万米ドルを支援することを公表している。アントニー国防相は今回、Dornier 海上哨戒機 1 機と海上哨戒用のヘリコプター、Chetak 2 機をできるだけ早期に供与することに合意した。それまでの間、インドは、自国の Dornier 海上哨戒機 1 機を海上哨戒用に提供する。アントニー国防相は、21010 年中に、海洋監視と水路調査のために、セイシェルに艦隊を派遣することも明らかにした。

記事参照：India and Seychelles agree to expand Cooperation for Maritime Security in Indian Ocean Region

<http://wavesnewsletter.com/?p=747>

### 7 月 20 日「ソマリアの海賊、ハイジャック船 2 隻を解放」(Xinhua, July 20, 2010)

ソマリアの海賊は 19 日、ケニア籍船の漁船、FV *Sakoba* とマーシャル諸島籍船のケミカルタンカー、MT *UBT Ocean* を解放した。

記事要旨：ケニアの東アフリカ船員支援計画のムワングラ代表は 20 日、ソマリアの海賊が 19 日、2 隻のハイジャック船を解放したことを確認した。それによれば、解放されたのは、ケニア籍船の漁船、FV *Sakoba* とマーシャル諸島籍船のケミカルタンカー、MT *UBT Ocean* である。FV *Sakoba* の乗組員は 16 人で、該船は 3 月 3 日、ケニアとセイシェルの間の海域でハイジャックされた。MT *UBT Ocean* の乗組員は 21 人で、該船は 3 月 5 日、マダカスカル沖合を航行中にハイジャックされた。

ケニアの海事組織、Ecoterra International によれば、7 月 20 日現在、少なくとも 21 隻の船舶がソマリアの海賊の手中にあり、人質となっている船員は少なくとも 387 人に上るといふ。

記事参照：Somali pirates release two ships

[http://news.xinhuanet.com/english2010/world/2010-07/20/c\\_13406594.htm](http://news.xinhuanet.com/english2010/world/2010-07/20/c_13406594.htm)

### 7 月 26 日「セイシェル、海賊 11 人に各 10 年の有罪判決」(CNN, July 27, 2010)

セイシェル最高裁判所は 26 日、自国の沿岸警備隊巡視船の乗っ取りを企て失敗した 11 人の被告に、懲役 10 年の有罪判決を宣告した。セイシェルには、裁判待ち、あるいはソマリアへの移送待ちの海

賊容疑者が他に 29 人いる。

記事要旨：セイシェル最高裁判所は 26 日、2009 年 12 月にセイシェル沿岸警備隊巡視船、*Topaz* の乗っ取りを企て失敗した 11 人の被告に有罪判決を下した。それによれば、8 人は海賊行為で、他の 3 人は海賊行為幫助で、共に懲役 10 年の有罪判決が下された。11 人は、2009 年 12 月 5 日と 6 日、2 隻の小型ボートで *Topaz* を銃撃した。海賊容疑者に有罪判決が下されるのは、セイシェルでは、今回が初めてである。セイシェルには、裁判待ち、あるいはソマリアへの移送待ちの海賊容疑者が他に 29 人いる。

記事参照：Seychelles convicts 11 Somali pirates

<http://edition.cnn.com/2010/WORLD/africa/07/27/seychelles.pirates/index.html?iref=allsearch#fbid=q90TgW2Yzmq>

### 7 月 28 日「ソマリアの海賊、トルコ船を解放」(Trade Winds, July 29, 2010)

ソマリアの海賊は 28 日、トルコのばら積船 (マルタ籍船)、MV *Frigia* (35,300DWT) を解放した。該船はエジプトからタイに向けて航行中、3 月 23 日にソマリア沿岸沖でハイジャックされた。該船の乗組員 21 人の健康状態は良好という。400 万米ドル近い身代金が 28 日朝に空中投下されたと見られる。

記事要旨：ソマリアの海賊は 28 日、トルコのばら積船 (マルタ籍船)、MV *Frigia* (35,300DWT) を解放した。該船はエジプトからタイに向けて航行中、3 月 23 日にソマリア沿岸沖でハイジャックされ、プントランド自治区の海賊の根拠地、Garacad で拘束されていた。該船の乗組員はトルコ人 19 人、ウクライナ人 2 人の計 21 人で、全員の健康状態は良好という。トルコの船主の法律顧問は身代金には言及していないが、解放に先立って 400 万米ドル近い身代金が 28 日朝に空中投下されたと見られる。

記事参照：Pirates free Turkish ship ; 購読者のみアクセス可能

### 7 月 28 日「商船三井原油タンカー、ホルムズ海峡西方海域で船体損傷」(商船三井プレスリリース、2010 年 7 月 28 日)

商船三井所有のマーシャル諸島籍船原油タンカー、MT *M Star* (160,292GRT) は、千葉に向けて航行中、現地時間 28 日 00 時 30 分頃、ホルムズ海峡西方海域のオマーン領海内において、外部からの攻撃が原因と疑われる爆発により、船体が損傷した。該船の乗組員は 31 人で、軽傷 1 名を除き負傷者はなく、油等の流出もない。該船は、自力航行に支障はなく、損傷状況の確認と原因究明のため、アラブ首長国連邦のフジャイラ港に向かった。

記事要旨：商船三井が 28 日に発表したプレスリリースによれば、同社所有のマーシャル諸島籍船原油タンカー、MT *M Star* (160,292GRT) は、日本時間 7 月 28 日 5 時 30 分頃 (現地時間 28 日 00 時 30 分頃)、ホルムズ海峡西方海域のオマーン領海内において、外部からの攻撃が原因と疑われる爆発により、船体が損傷した。該船の乗組員はインド人 15 人、フィリピン人 16 人の計 31 人で、軽傷 1 名を除き負傷者はなく、油等の流出もない。同社によれば、自力航行に支障はなく、損傷状況の確認と原因究明のため、アラブ首長国連邦 (UAE) のフジャイラ港に向かった。該船は、7 月 27 日に UAE のダス・アイランド港で原油を積み、千葉港に向け航行中であった。

記事参照：原油タンカー “M. STAR” ホルムズ海峡西方海域における船体損傷の件

<http://www.mol.co.jp/pr-j/2010/j-pr-1040.html>



Left: The damaged M Star oil tanker at sea near the port of Fujairah in the United Arab Emirates  
[http://2.bp.blogspot.com/\\_E-QOnTGFX\\_o/TFHfhTft0sI/AAAAAAAAAKHQ/f70TKsq1Lic/s1600/30shipspan-cnd-articleLarge.jpg](http://2.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/TFHfhTft0sI/AAAAAAAAAKHQ/f70TKsq1Lic/s1600/30shipspan-cnd-articleLarge.jpg)

Right: [http://2.bp.blogspot.com/\\_E-QOnTGFX\\_o/TFAscXBOYvI/AAAAAAAAAKGw/cQ1R8tLoMtQ/s1600/hormattack.jpg](http://2.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/TFAscXBOYvI/AAAAAAAAAKGw/cQ1R8tLoMtQ/s1600/hormattack.jpg)

## 1.2 軍事動向

### 7月1日「中国共産党成立 89 周年：解放軍報社説」（解放軍報、July 1, 2010）

7月1日付の解放軍報は、中国共産党成立 89 周年にあたり「軍隊の党建設科学化のレベル向上に努力しよう」と題する社説を掲載し、党の軍に対する絶対指導などを確認した。

記事要旨：7月1日付の解放軍報は、中国共産党成立 89 周年に当たり「軍隊の党建設科学化のレベル向上に努力しよう」と題する社説を掲載し、党の軍に対する絶対指導などを確認した。社説の主なポイントは以下の通りである。

- ① 成立 89 周年となった中国共産党は、執政、改革開放、市場経済、外部環境において新しい歴史的地点に立っており、党建設の強化と改善は必然的選択である。
- ② このような情勢において、軍の党建設は重要である。党建設との共同歩調は軍の伝統、政治的優良さである。しかし、新しい情勢下の任務の要求に対し、党建設のレベルが不十分な部署が一部ある。
- ③ 党の軍に対する絶対的指導は、軍の建設の根本原則であり、軍の党建設の科学化レベルの向上を保証する。
- ④ 軍隊の“非党化”、“非政治化”、“軍隊国家化”などの誤った思想の影響をしっかりとコントロールし、党の政治・組織規律を厳格にし、党中央、中央軍事委員会の支持を貫徹し、党中央、中央軍事委員会と胡錦濤主席の指示をしっかりと聞かなければならない。

記事参照：原文は中国語

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/01/content\\_32032.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/01/content_32032.htm)

### 7月2日「マレーシアの2隻目の潜水艦、本国に回航」(The Star Online, July 3, 2010)

マレーシアの *Scorpene* 級潜水艦 2 番艦、KD *Tun Razak* は 2 日、フランスのツーロンからルマト基地に回航されてきた。同艦は最終的に、サラワク州コキタナバルのспанガール海軍基地で、1 番艦の KD *Tunku Abdul Rahamn* と共に任務に就く。

記事要旨：マレーシアの *Scorpene* 級潜水艦 2 番艦、KD *Tun Razak* は 2 日、フランスのツーロンを 4 月 30 日に出航して 47 日ぶりに、ルマト基地に回航されてきた。同艦は、47 日間の航海中、40 日間は潜航した。同艦は最終的に、サラワク州 (ボルネオ) コキタナバルのспанガール海軍基地で、1 番艦の KD *Tunku Abdul Rahamn* と共に任務に就く。

記事参照：Malaysia: "Royal welcome for second sub"

<http://thestar.com.my/news/story.asp?file=/2010/7/3/nation/6600180&sec=nation>

### 7月3日「中国海軍海賊対処第6次派遣部隊、南シナ海で演習」(解放軍報電子版、南シナ海、July 3 and July 5, 2010)

中国海軍海賊対処第6次派遣部隊は、南シナ海のインドネシア領ナトゥーナ諸島周辺海域で、揚陸艦、「崑崙山」が3日、同艦初めてとなる「遠海」における高速パトロール艇の発艦訓練を実施した。また、5日には、「崑崙山」からエアクッション艇の発艦、訓練海域を航行している商船と共に模擬エスコート訓練などを行った。

記事要旨：3日付の解放軍報電子版によると、6月30日に湛江を出発した中国海軍海賊対処第6次派遣部隊は、70時間の連続航行を経て南シナ海のインドネシアのナトゥーナ諸島周辺海域に達した。ここで揚陸艦、「崑崙山」が、同艦初めてとなる「遠海」における高速パトロール艇の発艦訓練を実施した。第6次派遣部隊司令官で、南海艦隊参謀長の魏学義は、今次の訓練の成功は、「崑崙山」と艦載艇の遠海における機動能力を高め、護衛任務における救援、輸送、警告などの任務遂行に有効であると解放軍報記者に語った。

5日付の解放軍報電子版によると、中国海軍の海賊対処第6次派遣部隊は、揚陸艦、「崑崙山」からエアクッション艇の発艦、訓練海域を航行している商船と共に模擬エスコート訓練などを行った。報道によると、エアクッション艇は2009年12月に進水して以来、初めての遠海における訓練であるという。

記事参照：原文は中国語

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/05/content\\_32429.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/05/content_32429.htm)

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/06/content\\_32542.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/06/content_32542.htm)

Chinese navy's first hovercraft takes part in training (People daily Online, July 6, 2010)

<http://english.peopledaily.com.cn/90001/90776/90786/7054607.html>



揚陸艦「崑崙山」での高速パトロール艇の発艦準備



Chinese navy's first hovercraft takes part in training

Source: People daily Online, July 6, 2010

7月5日「中国、東シナ海での海空実働演習終了」(Global Times, June 29, and China Military Online, July 7, 2010)

中国海軍東海艦隊は6月30日から7月5日まで、浙江省沖合の東シナ海において数十隻の艦艇と十数機の航空機を動員した、海空部隊の実働演習と実弾射撃演習を実施した。一方、この演習については、一部の専門家から、6月下旬に黄海で予定されていた(OPRF注: 実際の実施時期は7月25日から28日の間に延期され、演習場所も日本海になった)、米韓合同演習を意識したものとの見方が出ていた。

記事要旨: 中国海軍東海艦隊は6月30日から7月5日まで、浙江省沖合の東シナ海において数十隻の艦艇と十数機の航空機を動員した、海空部隊の実働演習と実弾射撃演習を実施した。報道によれば、この演習は、定期演習で、武器・装備に戦闘環境における適用研究を深化させ、そして複雑な電磁波環境において戦闘任務を遂行する艦隊の能力を大幅に改善したという。また、新しい戦闘方法や訓練方法を開発したばかりでなく、海軍部隊と空軍部隊の広範な攻勢・防御における協同も演練された。

6月29日付の中国紙、Global Times 電子版の報道によれば、この演習については、一部の専門家は、6月下旬に黄海で予定されていた(OPRF注: 実際の実施時期は7月25日から28日の間に延期され、演習場所も日本海になった)、米韓合同演習を意識したものを見ていた。それによれば、香港の専門家は、もし米空母が黄海に入れば、中国の領海、中国北部全域そして遼東半島が空母の攻撃範

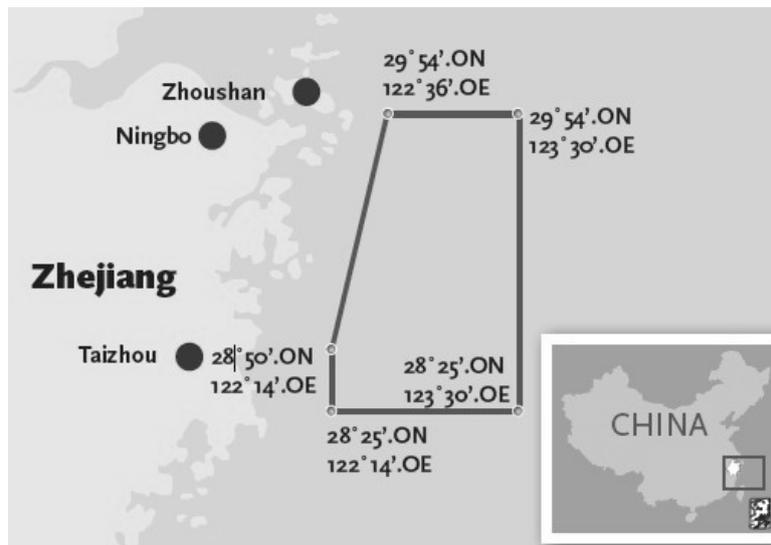
圈内に入ることになり、中国に対して挑発的と見られるとした上で、「中国は演習場所を東シナ海に設定したが、これは、外国の艦艇が黄海に入るのを難しくするのであろう」と述べている。この専門家は、東シナ海は黄海への唯一のゲートウェーで、この海域で外国艦艇を閉じ込め、打倒するための有利な戦闘環境を形成するのは中国海軍にとって容易であらう、と指摘している。

記事参照：PLA's navy drill draws speculation

<http://military.globaltimes.cn/china/2010-06/546416.html>

East China Sea Fleet organizes sea-and-air exercise

[http://eng.chinamil.com.cn/news-channels/china-military-news/2010-07/07/content\\_4254385.htm](http://eng.chinamil.com.cn/news-channels/china-military-news/2010-07/07/content_4254385.htm)



演習海域

Source: Global Times, June 29, 2010

演習の様子



The ship formation

Source: [http://eng.chinamil.com.cn/news-channels/china-military-news/2010-07/07/content\\_4254385\\_4.htm](http://eng.chinamil.com.cn/news-channels/china-military-news/2010-07/07/content_4254385_4.htm)



Destroying the incoming missiles

Source: [http://eng.chinamil.com.cn/news-channels/china-military-news/2010-07/07/content\\_4254385\\_6.htm](http://eng.chinamil.com.cn/news-channels/china-military-news/2010-07/07/content_4254385_6.htm)

### 7月6日「中国海軍による宮古水道航行は国際法に合致した正常な行動—中国国防部スポークスマン強調」(解放軍報電子版、July 7, 2010)

中国国防部スポークスマンは7月6日の記者会見で、日本防衛省が7月4日に中国海軍戦闘艦の沖縄本島と宮古島間の公海を太平洋方向に航行したと発表したことについて、「国際法に符合した正常な行動である」と述べた。

記事要旨：解放軍報によると、中国国防部スポークスマンは7月6日の記者会見で、日本防衛省が7月4日、中国の駆逐艦および護衛艦各1隻が沖縄本島と宮古島間の公海を太平洋方向に航行したと発表したことについて、「中国海軍による宮古海峡の航行は国際法に符合した正常な行動であり、日本側はこのような情報を発表する必要はない」と述べた。

記事参照：原文は中国語

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/07/content\\_32660.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/07/content_32660.htm)

### 7月7日「ロシア海軍、極東での大規模な軍事演習に参加」(RIA Novosti, July 7, 2010)

ロシア海軍の北方、黒海及び太平洋の各艦隊は、シベリアと極東地域で6月30日から7月8日まで実施される大規模な軍事演習、Vostok-2010演習に参加している。演習には数十隻の戦闘艦艇と支援艦艇が参加しており、北方及び黒海艦隊からは、それぞれの最大戦闘艦である、誘導ミサイル巡洋艦、the *Pyotr Veliky* と the *Moskva* が参加している。

記事要旨：ロシア海軍の北方、黒海及び太平洋の各艦隊は、シベリアと極東地域で6月30日から7月8日まで実施される大規模な軍事演習、Vostok-2010演習に参加している。演習には数十隻の戦闘艦艇と支援艦艇が参加しており、北方及び黒海艦隊からは、それぞれの最大戦闘艦である、誘導ミサイル巡洋艦、the *Pyotr Veliky* と the *Moskva* が参加している。海軍部隊は、対潜戦闘、対水上艦戦闘、敵の揚陸部隊の撃退と特定の海岸拠点への自軍部隊の揚陸支援を含む、戦闘演習に参加している。また、海軍部隊は、空軍部隊と協同で、敵の航空攻撃を撃退する演習も行っている。財政的制約から、海軍の主要戦闘艦の建造が今後数十年間に亘って限定されると見られることから、ロシア海軍

とって、主要戦闘艦の戦域間移動能力が重要になってくる。Vostok-2010 演習では、これが重要な演習項目となっている。Vostok-2010 演習では、2 隻の誘導ミサイル巡洋艦と 3 隻の対潜戦闘艦からなる機動部隊を編成した。

記事参照：Russian Navy participates in Vostok-2010 military exercises

<http://en.rian.ru/analysis/20100707/159728960.html>



Amphibious-landing operation aimed at seizing an enemy beachhead

Source: RIA Novosti, July 7, 2010

### 7月8日「米海軍巡航ミサイル潜水艦3隻、アジア海域に中国近海に同時出現—米誌報道」(Time, July 8, 2010)

7月8日付の米誌、*Time* の報道によれば、米海軍の *Ohio* 級巡航ミサイル潜水艦 (SSCN) 3 隻が 6 月 28 日、中国近海に同時に出現した。*Ohio* 級巡航ミサイル潜水艦は、同級弾道ミサイル潜水艦 (SSBN) を最大 154 基の Tomahawk 巡航ミサイルと 60 人の特殊任務部隊要員搭載型に改装したものである。この日、中国は、最大 462 基の巡航ミサイルに取り囲まれたわけである。米国の中国専門家は、「これは、域内の多くの国が我々に期待している、地域のバランスとして行動する我々の決意をどの国も妨害すべきでないとのメッセージである」と語っている。北京はこのメッセージを受け止めたことは疑いない。

記事要旨：7月8日付の米誌、*Time* の報道によれば、米海軍の *Ohio* 級巡航ミサイル潜水艦 (SSCN) 3 隻が 6 月末、中国近海に同時に出現した。*Ohio* 級巡航ミサイル潜水艦は、18 隻の同級弾道ミサイル潜水艦 (SSBN) の内、4 隻を最大 154 基の Tomahawk 巡航ミサイルと 60 人の特殊任務部隊要員搭載型に改装したものである。報道によれば、USS *Ohio* が 6 月 28 日にフィリピンのスービック湾に浮上し、USS *Michigan* が同日、韓国の釜山に寄港し、更に USS *Florida* も同日、インド洋ディエゴガルシアの米英合同海軍基地に浮上した。この日、中国は、最大 462 基の巡航ミサイルに取り囲まれたわけである。米海軍は 6 月に、*Ohio* 級巡航ミサイル潜水艦 4 隻が初めて同時に母港（ジョージア州キングスベイ）を離れ、作戦行動に入った、と発表していた。米政府は、大西洋から太平洋に戦力配備の比重を移しており、こうした動きはそうした方針の一環である。

ワシントンの戦略国際研究センター (CSIS) の中国専門家、グレーサー (Bonnie Glaser) は、

「米軍は太平洋地域における戦力を増強することを決定しており、こうした動きを中国が注視していることは疑いが無い。これは、域内の多くの国が我々に期待している、地域のバランスとして行動する我々の決意をどの国も妨害すべきでないとのメッセージである」と語っている。米当局は、3隻同時出現は偶然の一致であると述べ、北京に対する如何なるメッセージでもないかと否定している。しかし、北京はこのメッセージを受け止めたことは疑いない。

記事参照 : U.S. Missiles Deployed Near China Send a Message

<http://www.time.com/time/nation/article/0,8599,2002378,00.html>

### 7月11日「インド、6隻の次世代潜水艦を取得へ」(The Times of India, July 11, 2010)

インド海軍は、6隻の次世代潜水艦を5,000億ルピーで取得する。6隻の内、4隻は提携外国企業の支援を得て国内で建造する。この取得計画、Project-75 India (P-75I) によれば、6隻の次世代潜水艦は、非大気依存推進 (AIP) システムを装備することになっている。海軍は、今後6年から7年以内に、最初の P-75I 潜水艦の取得を望んでいる。

記事要旨 : インド海軍は、6隻の次世代潜水艦を5,000億ルピーで取得する。アントニー国防相が議長を務める、国防取得審議会 (the Defence Acquisitions Council: DAC) はこのほど、6隻の内、提携外国企業の支援を得て3隻をムンバイの Mazagon Docks (MDL) で、1隻をビジャカパトナムの Hindustan Shipyard Ltd (HSL) で建造することを最終決定した。この取得計画、Project-75 India (P-75I) によれば、6隻の次世代潜水艦は、ステルス性能、対地攻撃能力及び将来技術の導入に加えて、水中作戦能力を高めるために、非大気依存推進 (AIP) システムを装備することになっている。最終的な P-75I の提携外国企業の選定から建造契約に至るには時間がかかるが、インド海軍には、潜水艦取得を急がなければならない理由がある。2015年あるいはその前後に、現有のディーゼル潜水艦戦力の半分を占める、ロシア製の *Kilo* 級10隻、ドイツ製の HDW 型4隻、*Foxtrot* 級1隻が退役艦齢を迎えるからである。その上、フランス製の6隻の *Scorpene* 級潜水艦を建造する、現在の Project-75 は計画より建造価格の高騰によって3年遅れている。当初計画では、2012年から1年毎に1隻完成することになっていた。海軍は、今後6年から7年以内に、最初の P-75I 潜水艦の取得を望んでいる。

インドは原潜を保有していないが、2010年10月にロシアから10年間のリース契約で、*Akula-II* 級原潜、K-152 *Nerpa* を導入することになっており、2012年初めまでには最初の国産原潜、INS *Arihant* を配備することになっている。一方、パキスタンは既に、1999年以来導入してきた、フランス製 *Agosta-90B* 級潜水艦の3番艦、PNS *Hamza* に最初の Mesma AIP システムを導入している。更に、パキスタンは、AIP システム装備のドイツ製新型潜水艦、Type-214 を3隻導入する計画である。中国は、62隻の潜水艦を装備しており、その内10隻は原潜である。

記事参照 : Biggest military deal: Six subs for Rs 50,000 crore

<http://timesofindia.indiatimes.com/india/Biggest-military-deal-Six-subs-for-Rs-50000-crore/articleshow/6152862.cms>

### 7月13日「米海軍戦闘艦、27年ぶりにスリランカ訪問」(U.S. Navy News Stand, July 14, 2010)

米海軍の揚陸輸送艦、USS *Pearl Harbor* (LSD 52) は13日、Benevolent Phoenix 2010 演習に参加するため、スリランカのトリンコモリーを訪問した。米海軍戦闘艦のスリランカ訪問は、1983年以来、27年ぶりとなった。

記事要旨：米海軍の揚陸輸送艦、USS *Pearl Harbor* (LSD 52) は 13 日、Benevolent Phoenix 2010 演習に参加するため、スリランカのトリンコマリーを訪問した。米海軍戦闘艦のスリランカ訪問は、1983 年以來、27 年ぶりとなった。3 日間の訪問中、同艦は、スリランカ海軍と各種の演習を実施する。

記事参照：USS Pearl Harbor Arrives in Trincomalee

<http://www.public.navy.mil/surfor/lsd52/Pages/USSPearlHarborArrivesinTrincomalee.aspx>

### 7 月 15 日「米海軍、グアムに潜水艦施設建設開始」(Military News, July 21, 2010)

グアムの米海軍基地、Polaris Point で、潜水艦施設の起工式が行われた。建設される施設は、潜水艦訓練施設 (SLC) と司令部が入居する 2 階建ての建物と 1 階建ての機雷訓練支援施設である。現在、3 隻の *Los Angeles* 級原潜、USS *Buffalo* (SSN 715)、USS *City of Corpus Christi* (SSN 705) 及び USS *Houston* (SSN 713) が グアムを母港としている。

記事要旨：米海軍の Naval Facilities Engineering Command (NAVFAC) Marianas と Submarine Squadron 15 は 15 日、グアムの米海軍基地、Polaris Point で、潜水艦施設の起工式を行った。建設される施設は、潜水艦訓練施設 (SLC) と司令部が入居する 2 階建ての建物と 1 階建ての機雷訓練支援施設である。司令部施設には、事務・管理スペース、緊急事態管理センター、資材・装備保管庫が含まれる。SLC は、潜水艦要員に対するシミュレーター訓練などの座学訓練施設である。建設費は 2,341 万ドルである。Submarine Squadron 15 の任務は、西太平洋に前方展開することになる潜水艦部隊を常時最高度の即応態勢維持しておくことである。現在、3 隻の *Los Angeles* 級原潜、USS *Buffalo* (SSN 715)、USS *City of Corpus Christi* (SSN 705) 及び USS *Houston* (SSN 713) がグアムを母港としている。

記事参照：Guam Gets New Sub Buildings

<http://www.military.com/news/article/navy-news/guam-gets-new-sub-buildings.html>

### 7 月 24 日「旧ソ連時代の原子力巡洋艦、現役復帰を計画—ロシア海軍」(RIA Novosti, July 25, 2010)

ロシア海軍は、防錆保管中の *Kirov* 級原子力巡洋艦 3 隻を現役に復帰させる計画である。4 隻の *Kirov* 級原子力巡洋艦の内の 1 隻、*Pyotr Veliky* は北方艦隊の旗艦として現役である。残りの 3 隻、*Admiral Nakhimov*、*Admiral Lazarev*、*Admiral Ushakov* は今後 10 年以内に近代化され、現役に復帰する。搭載電子機器と兵装も全面的に近代化される。

記事要旨：ロシア海軍の高官が 24 日、RIA Novosti に明らかにしたところによれば、ロシア海軍は、防錆保管中の旧ソ連時代の原子力ミサイル巡洋艦 3 隻を現役に復帰させる計画である。ロシアは 1974 年から 1998 年の間、4 隻の *Kirov* 級原子力巡洋艦を建造した。その内の 1 隻、*Pyotr Veliky* は、北方艦隊の旗艦として現役である。海軍の高官によれば、残りの 3 隻、*Admiral Nakhimov*、*Admiral Lazarev*、*Admiral Ushakov* は今後 10 年以内に近代化され、現役に復帰する。搭載電子機器と兵装も全面的に近代化される。*Kirov* 級原子力巡洋艦はロシア海軍では空母に次ぐ大型艦で、*Admiral Ushakov* (旧 *Kirov*) は 1980 年に就役し、1990 年に地中海で原子炉事故を起こし、資金不足から修理されなかったといわれる。*Admiral Lazarev* (旧 *Frunze*) は 1984 年に就役し、1998 年に防錆保管された。*Admiral Nakhimov* (旧 *Kalinin*) は 1988 年に就役し、1999 年に防錆保管された。同艦

は 2005 年以來、Severodvinsk 造船所で大規模なオーバーホール中と報じられてきた。*Kirov* 級原子力巡洋艦の主要兵装には、SS-N-19 Shipwreck 対艦ミサイル、防空兵装として SA-N-6 Grumble 対空ミサイルランチャー（ミサイル 96 基）と SA-N-4 Gecko 対空ミサイルランチャー（ミサイル 40 基）が含まれる。

記事参照：Russia plans to upgrade 3 nuclear-powered cruisers by 2020

[http://en.rian.ru/military\\_news/20100725/159939020.html](http://en.rian.ru/military_news/20100725/159939020.html)



The nuclear-powered missile cruiser *Admiral Nakhimov*

Source: RIA Novosti, July 25, 2010

#### 7 月 25 日「米韓両国、日本海で合同軍事演習開始」(The Washington Post, July 26, 2010)

米韓両国は 25 日、合同軍事演習、Invincible Spirit を日本海で開始した。マレン米統合参謀本部議長は演習に先立って、「この演習の狙いは、米韓関係が極めて強力であることを確認すると共に、北朝鮮に対して、彼らの行為が国際規範に完全に違反し、全面的に受け入れられないものであるとのメッセージを伝えることにある」と語っている。4 日間にわたる演習では、火力を誇示するために、両国から、米空母、USS *George Washington* を含む約 20 隻の艦艇、人員 8,000 人、F-22 戦闘機を含む航空機約 200 機が参加している。

記事要旨：米韓両国は 25 日、合同軍事演習、Invincible Spirit を日本海で開始した。この演習は、3 月の韓国海軍哨戒艦「天安」沈没事件以来、域内における力と団結を誇示する、米韓両国による最も明快な行動である。マレン米統合参謀本部議長は演習に先立って、「この演習の狙いは、米韓関係が極めて強力であることを確認すると共に、北朝鮮に対して、彼らの行為が国際規範に完全に違反し、全面的に受け入れられないものであるとのメッセージを伝えることにある」と語っている。北朝鮮は演習の前日、「強力な核抑止力」によって演習に対抗するであろう、と述べた。この演習は当初、黄海で予定されていたが、中国が強く反発したこともあって、日本海に変更された。中国外務省報道官は、中国の安全保障を脅かしかねない黄海での演習に、強い反対の意向を表明していた。

4 日間にわたる演習では、火力を誇示するために、両国から、米空母、USS *George Washington* を含む約 20 隻の艦艇、人員 8,000 人、F-22 戦闘機を含む航空機約 200 機が参加している。

記事参照：South Korea and U.S. send message to North Korea with drills in Sea of Japan

<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/07/25/AR2010072500754.html>



The Los Angeles-class attack submarine USS *Tucson* (SSN 770) is underway ahead of the US nuclear-powered aircraft carrier USS *George Washington* (first row, 2nd L) and ROK Navy's Landing Platform Helicopter ship *Dokdo* (first row, 3rd L) during the US-ROK joint naval and air exercise in the open sea east of the Republic of Korea (ROK) July 26, 2010.

Source: China Daily, July 27, 2010

### 7月25日「ロシア海軍、地中海の対テロ哨戒活動中止、海賊対処活動に重点」(RIA Novosti, July 25, 2010)

ロシア海軍司令部報道官は25日、ロシア海軍は地中海における NATO 主導の対テロ哨戒活動への参加を停止し、ソマリア沖の海賊対処活動に重点を置くことを明らかにした。同報道官によれば、現在、ロシア海軍は、2つの作戦行動を実施している。海賊対処活動とは別に、ロシア海軍は、黒海でトルコ海軍と共に、テロ対処とトルコ海峡の安全確保を狙いとする、Operation Black Sea Harmony を実施している。

記事要旨：ロシア海軍司令部報道官は25日、ロシア海軍は地中海における NATO 主導の対テロ哨戒活動への参加を停止し、ソマリア沖の海賊対処活動に重点を置くことを明らかにした。NATO 諸国の海軍戦闘艦艇は、9.11 に対する NATO の対応措置として始められた地中海での対テロ哨戒活動、Operation Active Endeavour を実施している。海軍報道官は、今日、船員の生命が脅かされる危険は地中海よりアデン湾海域の方がはるかに高く、従って「アフリカの角」周辺海域での船舶護衛活動へのロシア海軍戦闘艦の参加は、NATO の Operation Active Endeavour への不参加を十分補うものである、と強調した。同報道官によれば、現在、ロシア海軍は、2つの作戦行動を実施している。海賊対処活動とは別に、ロシア海軍は、黒海でトルコ海軍と共に、Operation Black Sea Harmony を実施している。Operation Black Sea Harmony は、トルコ海軍が国連安保理決議に基づいて2004年に始めた、テロ対処とトルコ海峡の安全確保を狙いとする哨戒活動である。

記事参照：Russia drops role in NATO's Med Sea operation to focus on piracy fight off Somalia

<http://en.rian.ru/russia/20100725/159941954.html>

**7月26日「中央軍事委員・総参謀長の陳炳徳、南海艦隊の演習を視察」(解放軍報電子版、三亜、July 29, and 新華網、July 30, Aug 1, 2010)**

南海艦隊が組織する海軍の多兵科合同実弾演習が26日、南シナ海で行われた。中央軍事委員・総参謀長の陳炳徳が演習を視察し、中央軍事委員・海軍司令員の呉勝利も同席した。同演習には北海、東海、南海艦隊の主力駆逐艦が参加し、「複雑な電磁環境」において、海に向けた長距離精密攻撃、航空系の制空作戦、そして複雑な電磁環境における水上艦隊の防空などの訓練を行った。

記事要旨：各種報道によると、7月26日、南海艦隊が組織する海軍の多兵科合同実弾演習が南シナ海で行われた。中央軍事委員・総参謀長の陳炳徳が演習を視察し、中央軍事委員・海軍司令員の呉勝利も同席した。陳炳徳は「胡主席の一連の重要指示と中央軍事委員会の要求を貫徹し、システム化された作戦能力を構築することに着眼し、積極的に軍事訓練の変化を進めていかなければならない」と強調した。

報道によると、同演習には北海、東海、南海艦隊の主力駆逐艦が参加し、「複雑な電磁環境」において、海に向けた長距離精密攻撃、航空系の制空作戦、そして複雑な電磁環境における水上艦隊の防空などの訓練を行った。報道では、訓練要素、実弾使用数、高度な情報化の面でも、海軍史上特に複雑な電磁環境における訓練であったことが強調された。新華網によると、演習は3つの海域、1万8,000平方キロメートルの範囲で実施され、発射したミサイル16型は71基であったという。

記事参照：原文は中国語

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/29/content\\_34474.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/29/content_34474.htm)

[http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/30/content\\_13938342.htm](http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/30/content_13938342.htm)

[http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/30/content\\_13937530.htm](http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/30/content_13937530.htm)

[http://news.xinhuanet.com/mil/2010-08/01/content\\_13947419.htm](http://news.xinhuanet.com/mil/2010-08/01/content_13947419.htm)



演習に参加した南海艦隊の「中国版イージス」防空艦

[http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/30/content\\_13938342.htm](http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/30/content_13938342.htm)



A missile mosquito craft moves during a live-ammunition military drill held by the South China Sea Fleet of the People's Liberation Army (PLA) Navy in the South China Sea July 26, 2010.

Source: Xinhua, July 29, 2010

### 7月30日「中国海軍練習艦『鄭和』、南太平洋諸国への友好訪問に出発」(解放軍報電子版、大連、July 28, July 30, 2010)

中国海軍の練習艦・鄭和は30日、誘導ミサイル駆逐艦、「綿陽」を随伴し、パプア・ニューギニア、バヌアツ、トンガ、ニュージーランド、及びオーストラリアへの友好訪問に出発した。10月末にかけて80日強の航海となる。

記事要旨：中国海軍の練習艦・鄭和は30日、ミサイル駆逐艦、「綿陽」を随伴し、パプア・ニューギニア、バヌアツ、トンガ、ニュージーランド、及びオーストラリアへの友好訪問に出発した。10月末にかけて80日強の航海となる。報道によると、練習艦と作戦艦が艦隊を編成するのは初めてのケースであり、練習艦要員の遠洋航行訓練と人材育成のためであるという。同艦隊は、海軍副参謀長の冷振慶少将が指揮官を務める。

記事参照：原文は中国語

[http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/31/content\\_34661.htm](http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-07/31/content_34661.htm)

## 1.3 海洋境界

### 7月13日「日本政府、EEZ 権益保全のための基本計画を閣議決定」(2010年7月13日、産経ニュース)

日本政府は13日、日本の排他的経済水域（EEZ）の権益を守るために離島保全を図る、「低潮線保全・拠点施設整備法」に基づく基本計画を閣議決定した。同法で「特定離島」に指定された日本最南端の沖ノ鳥島、最東端の南鳥島に港湾施設を整備して拠点化し、希少金属などの資源開発や漁業活動を活発化する。

記事要旨：日本政府は13日、日本の排他的経済水域（EEZ）の権益を守るために離島保全を図る、

「低潮線保全・拠点施設整備法」に基づく基本計画を閣議決定した。同法で「特定離島」に指定された日本最南端の沖ノ鳥島、最東端の南鳥島に港湾施設を整備して拠点化し、希少金属などの資源開発や漁業活動を活発化する。同法は、6月24日に施行された。閣議決定された基本計画は、「海洋立国を目指すわが国は、長期的で戦略的な視点を持って EEZ の保全、利用を推進することが必要」とし、沖ノ鳥島、南鳥島について、①サンゴ増殖技術による国土の保全、②鉱物資源開発の推進、③地球環境の観測・研究活動、のための活動拠点と位置付けている。

記事参照：政府が EEZ 権益保全へ基本計画

<http://sankei.jp.msn.com/politics/policy/100713/plc1007131236007-n1.htm>

## 1.4 外交・国際関係

### 7月23日「航行の自由は米国の国益—クリントン米国务長官」(U.S. Department of State HP, July 23, 2010)

クリントン米国务長官は23日、ハノイで開催された ASEAN 地域フォーラム (ARF) 閣僚会議終了後の会見で、南シナ海を巡る米国の立場について、「航行の自由、アジアの海洋コモンズに対する自由なアクセス、そして南シナ海における国際法規の遵守は、米国の国益である」と強調した。

記事要旨：クリントン米国务長官は23日、ハノイで開催された ASEAN 地域フォーラム (ARF) 閣僚会議終了後の会見で、南シナ海を巡る米国の立場について、要旨以下のように述べた。

- ①航行の自由、アジアの海洋コモンズに対する自由なアクセス、そして南シナ海における国際法規の遵守は、米国の国益である。我々は、この利益を、ASEAN 諸国と ARF 参加国のみならず、他の海洋国家や国際社会全体とも共有する。
- ②米国は、多様な領土紛争を解決するために、全ての関係国による協調的な外交プロセスを支持する。我々は、どの関係国による武力の使用あるいは威嚇にも反対する。
- ③米国は、南シナ海における領土主権を巡る紛争に対しては、いずれの側にも与しないが、我々は、いずれの当事国も国連海洋法条約を遵守して、領土主権と海洋スペースに対する権利を追求すべきである、と考える。国際法規に準拠すれば、南シナ海における海洋スペースに対する合法的な主張は、領土に対する合法的な主張からのみ導き出されるべきである。
- ④米国は、南シナ海における関係国の行動に関する 2002 年の ASEAN と中国の宣言 (the Declaration on the Conduct of Parties in the South China Sea) を支持する。我々は、関係国に対して、法的な行動規範に合意するよう慫慂する。米国は、この宣言に則ったイニシアチブや信頼醸成措置を促進させる用意がある。

なお、クリントン長官は、米国の国連海洋法条約批准問題につて、米国内では超党派の強い支持があり、2011 年中に上院での批准を実現することがオバマ政権の外交上の優先課題の1つである、と述べた。

記事参照：Remarks at Press Availability

<http://www.state.gov/secretary/rm/2010/07/145095.htm>

**【関連記事 1】****「中国、クリントン発言に反駁」(The New York Times, July 26, 2010)**

中国は、クリントン長官の発言に対して反駁している。外交部報道官は、「南シナ海問題を国際化したり、多国間問題にしたりすれば、どうなるか。問題を悪化させるだけで、解決を一層困難にするだけである」と述べた。

記事要旨：26日付の米誌、*The New York Times* は、中国がクリントン長官の発言に反駁しているとして、要旨以下のように報じている。

- ①中国外交部報道官は、「南シナ海問題を国際化したり、多国間問題にしたりすれば、どうなるか。問題を悪化させるだけで、解決を一層困難にするだけである」と述べた。
- ②国営メディアも、クリントン発言を、中国の目標や拡大する力を押さえ込もうとする攻撃的で皮肉な努力と決め付けている。人民日報は26日の社説で、「アメリカの望みは、軍事力を増大させている中国を封じ込めることである」と述べている。英語版の *Global Times* は、「中国は、軍事的手段を持って、自国の『核心的利益』(its core interest) を護る権利を決して放棄しないと強調している。
- ③北京の社会科学院の東南アジア問題専門家、*Xu Liping* は、長年、イラクとアフガニスタンにおける紛争に足を取られてきた米国が、アジアにおける影響力の回復を求め始めたとして、「米国にとって経済的分野での中国との競争が次第に困難になってきていることから、米国は、政治的、軍事的カードを切る時が来たと感じている」と指摘している。

記事参照：China Warns U.S. Against Wading Into Islands Dispute

[http://www.nytimes.com/2010/07/27/world/asia/27china.html?\\_r=1&ref=world](http://www.nytimes.com/2010/07/27/world/asia/27china.html?_r=1&ref=world)

**【関連記事 2】****「中国国防スポークスマン、南シナ海に対する中国の主権を強調」(新華網、July 30, 2010)**

中国国防部のスポークスマンは30日、南シナ海の島嶼と付近の海域に対して争いようのない主権を有し、これには歴史・法の十分な裏付けがあると強調した。

記事要旨：中国国防部のスポークスマンは30日、南シナ海の島嶼と付近の海域に対して争いようのない主権を有し、これには歴史・法の十分な裏付けがあると強調した。中国国防部スポークスマン、耿雁生の発言のポイントは以下のとおりである。

- ①中国は、国際法および南シナ海における関係国家との平和的話し合いと友好協議に基づき、違いを解決することを主張している
- ②南シナ海問題の国際化に反対する。同時に、国際法に基づき、関係する国家の南シナ海における国際法に符合する航行と上空飛行の自由を尊重する。

記事参照：原文は中国語

[http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/30/content\\_13939278.htm](http://news.xinhuanet.com/mil/2010-07/30/content_13939278.htm)

## 1.5 海運・造船・港湾

### 7月1日「パナマ運河、拡張工事開始」(Latin American Herald Tribune, July 1, 2010)

パナマ運河に第3 閘門を建設する工事が、このほど開始された。拡張工事によって、2025 年までにパナマ運河の通峡能力は倍増し、ポスト・パナマックス級のコンテナ船（1 万 2,000TEU）が通行可能となる。

記事要旨：ベネズエラの *Latin American Herald Tribune* 紙の1 日付報道によれば、パナマ運河に第3 閘門を建設する工事が、このほど開始された。総額 31 億 2,000 万米ドル（パナマ運河庁の見積もりでは 52 億 5,000 万米ドル）の拡張工事によって、2025 年までにパナマ運河の通峡能力は倍増する。拡張工事によって、ポスト・パナマックス級のコンテナ船（1 万 2,000TEU）が通行可能となる。これまでは、米空母クラス的大型船と共に、コンテナ船は 4,400TEU クラスまでしか通航できなかった。運河庁は、2025 年の運河収入を年間 62 億米ドルと見込んでいる。これは、2009 年の 21 億米ドルに比して、大幅な増収となる。

記事参照：Panama: "Expansion Work Begins on Panama Canal"

<http://laht.com/article.asp?ArticleId=359567&CategoryId=14088>

### 7月2日「米議会、クルーズ船保安法案を可決」(Fairplay Daily News, July 2, 2010)

米議会はこのほど、クルーズ船乗客の船外落下や船舶襲撃事案に対処するために、the Cruise Vessel Security and Safety Act of 2010 を可決した。オバマ大統領が署名すれば、この法律は、1 人以上の米国人を乗せて米国の港に入港する全てのクルーズ船に適用されることになる。大統領の署名による発効後 18 カ月以内に、クルーズ船運航会社は、全ての ship rail がデッキからの高さが少なくとも 42 インチ（102 センチ）あること、全ての個室とクルー・キャビンには覗き窓を設置することなどが義務付けられる。違反した場合は、1 日当たり 2 万 5,000 米ドルの罰金が課され、また米国の港への入港を禁止することもできる。

記事要旨：米議会はこのほど、クルーズ船乗客の船外落下や船舶襲撃事案に対処するために、the Cruise Vessel Security and Safety Act of 2010 を可決した。オバマ大統領が署名すれば、この法律は、1 人以上の米国人を乗せて米国の港に入港する全てのクルーズ船に適用されることになる。大統領の署名による発効後 18 カ月以内に、クルーズ船運航会社は、全ての ship rail がデッキからの高さが少なくとも 42 インチ（102 センチ）あること、全ての個室とクルー・キャビンには覗き窓を設置することが義務付けられる。発効後に起工した全ての船舶に対しては、各船室のドアに保安用の掛け金と時限式施錠を装備することが義務付けられる。更に、各船舶には、船外に落下した乗客を救出、探知することができる技能を保持することが求められる。クルーズ船は、船上での犯罪に関する詳細な情報を記載した航海日誌を保管しなければならない。クルーズ船業界の事件データは、四半期毎にインターネットで広報される。法律に違反した場合は、1 日当たり 2 万 5,000 米ドルの罰金が課され、また米国の港への入港を禁止することもできる。

記事参照：US cruise safety law passed；購読者のみアクセス可能

**【関連記事】****「オバマ大統領、法案に署名」(Los Angeles Times, July 28, 2010)**

オバマ大統領は 27 日、the Cruise Vessel Security and Safety Act of 2010 に署名した。米国では、クルーズ業界は 400 億ドル市場で、35 万 7,000 人以上の雇用を生み出している。フロリダに本拠を置く、「クルーズライン国際協会」(the Cruise Lines International Association: CLIA) は声明で、業界は常にクルーズ船の安全を最優先課題にしている、と強調した。業界によれば、一部のクルーズ船は既に、42 インチ ship rail や覗き窓を装備している。

記事参照 : Obama signs cruise ship safety bill

<http://articles.latimes.com/2010/jul/28/business/la-fi-cruise-ships-20100728>

**7 月 13 日「中国海運大手、アテネのコンテナ港の管理運営権を取得」(Xinhua, July 13, 2010)**

中国の国営海運大手、中国遠洋運輸集団 (COSCO) の子会社で港湾管理会社、COSCO Pacific はこのほど、ギリシャの首都アテネ近郊のコンテナ港、ピレウス港の管理運営権を 35 年間取得するリース契約を、総額 42 米億ドルで取得した。6 月に締結された契約によれば、現在のコンテナ処理施設を改善すると共に、新コンテナ埠頭を建設することで、同港の貨物処理能力を約 3 倍に高めるために、7 億 700 万米ドルを投資する。COSCO は、ピレウス港を欧州最大のアムステルダム港に匹敵するコンテナ・ハブ港にすることを狙いとしている。

記事要旨 : 中国の国営海運大手、中国遠洋運輸集団 (COSCO) の子会社で港湾管理会社、COSCO Pacific はこのほど、ギリシャの首都アテネ近郊のコンテナ港、ピレウス港の管理運営権を 35 年間取得するリース契約を、総額 42 米億ドルで取得した。6 月に締結された契約によれば、現在のコンテナ処理施設を改善すると共に、新コンテナ埠頭を建設することで、同港の貨物処理能力を約 3 倍に高めるために、7 億 700 万米ドルを投資する。これは、中国産品を欧州各地に配送するため、現代のシルク・ロードともいふべき、港湾、補給センター及び鉄道によるネットワーク作り一環で、東西貿易のスピード化と欧州大陸に強力な経済拠点を確保する計画である。COSCO は、ピレウス港を欧州最大のアムステルダム港に匹敵するコンテナ・ハブ港にすることを狙いとしている。中国は 2010 年末までに、中国からの産品をバルカン地方とその他の欧州地域に配送する補給センターを同港近くのアッチカに建設するため、2 億ユーロ (2 億 5,220 万米ドル) の資金でギリシャの企業と共同事業体を立ち上げることになっている。中国はまた、不振にあえぐギリシャ国有鉄道の株取得についても交渉中である。

記事参照 : COSCO acquires rights to Athens port

[http://news.xinhuanet.com/english2010/china/2010-07/13/c\\_13397633.htm](http://news.xinhuanet.com/english2010/china/2010-07/13/c_13397633.htm)

**7 月 22 日「インドネシア、スマトラ島のベラワン港などの拡充を計画」(Bisnis Indonesia Online, July 22, 2010)**

インドネシアは、スマトラ島のベラワン港国際コンテナ埠頭のインフラ整備を進めており、スラバヤのタンジュン・ペラクとジャカルタのタンジュン・プリオクにおけるハブ港プロジェクトと共に、完成すれば、同港もハブ港としての機能を持つ。

記事要旨 : インドネシアの国営港湾管理会社、PT Pelabuhan Indonesia (Pelindo) I のメダン事務所が 22 日に明らかにしたところによれば、ベラワン、アチェ及びリアウ諸島の港湾改修計画に対する 2010 年の投資額は 1 兆 3,000 億インドネシア・ルピーとなっている。特に、スマトラ島のベラ

ワン港国際コンテナ埠頭のインフラ整備が重視されている。メダン事務所によれば、一部の工事は既に始まっており、2011年から12年にかけての完成が見込まれている。スラバヤのタンジュン・ペラクとジャカルタのタンジュン・プリオクにおけるハブ港プロジェクトと共に、完成すれば、ベラワン港もハブ港としての機能を持つ。

記事参照：Pelindo I upgrades ports' infrastructure

<http://www.bisnis.com/en/corporate/lid195033.html>

## 1.6 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

### 7月3日「台湾の流出油回収用大型タンカー、メキシコ湾で回収実験開始」(AP, July 3, 2010)

台湾の流出油回収用大型タンカー、MT *A Whale* (319,869DWT) は、3日からメキシコ湾で流出原油の回収実験を開始する。該船は、12本の吸水口で海水を汲み上げ、海水から原油を分離し、浄化した水だけをメキシコ湾に戻す機能を持ち、1日当たり2,100万ガロンの汚染海水浄化能力を持つ。

記事要旨：台湾の流出油回収用大型タンカー、MT *A Whale* (319,869DWT) は、3日からメキシコ湾で流出原油の回収実験を開始する。該船を保有する台湾のTMT (Today Makes Tomorrow) 海運によれば、該船は、同社がタンカーを改造したもので、10階建てのビルに相当する高さで、12本の吸水口で海水を汲み上げ、海水から原油を分離し、浄化した水だけをメキシコ湾に戻す機能を持ち、1日当たり2,100万ガロンの流出原油による汚染海水を浄化する能力を持つ。

記事参照：Giant oil skimmer being tested in Gulf of Mexico

[http://news.yahoo.com/s/ap/20100703/ap\\_on\\_bi\\_ge/us\\_gulf\\_oil\\_spill](http://news.yahoo.com/s/ap/20100703/ap_on_bi_ge/us_gulf_oil_spill)



MT *A Whale*

Source: <http://www.shipspotting.com/modules/myalbum/photo.php?lid=1119896>

## 7月26日「減速航行によるCO<sub>2</sub>削減—Maerskライン」(Shiptalk, July 26, 2010)

世界最大の海運会社、Maerskの貨物船は現在、130年以上も前のクリッパー、*Cutty Sark*もより遅い船速で航行している。2年前から多くの海運会社が、通常の20~25ノットから、12ノットの「減速航行」を採用している。減速航行によって、燃料消費と排気ガスは30%削減され、Maerskは、減速航行を始めてから、6,500万ポンド以上の燃料費を節減できたと見られる。Maerskによれば、20%の減速航行を採用することで、1カイリ当たり40%の燃料節減となり、ここ数年でCO<sub>2</sub>削減の最も重要な措置となっているという。

記事要旨：デンマークに本拠を置き、600隻以上の船舶を運航する世界最大の海運会社、Maerskの貨物船は現在、130年以上も前のクリッパー、*Cutty Sark*もより遅い船速で航行している。景気の後退と排気ガスと気候変動に対する海運業界の関心の高まりから、2年前から多くの海運会社が、通常の20~25ノットから、12ノットの「減速航行」を採用している。米国と中国間航路あるいはオーストラリアと欧州間航路では、現在、19世紀の帆船時代の最盛期並の航海日数となっている。1850年代には、米国のクリッパーは14~17ノットで航行しており、最速記録は22ノット、あるいはそれ以上であった。Maerskは、エンジンに損傷を与えることなく減速航行するために、ディーゼル・エンジンを改造してきた。減速航行によって、燃料消費と排気ガスは30%削減され、Maerskは、減速航行を始めてから、6,500万ポンド以上の燃料費を節減できたと見られる。船舶のエンジンは本来、燃料効率が悪く、汚染物質を排出する。船舶は、高速航行のために、航空機や自動車と同程度の品質規制の対象とはならない、最も安いバンカー・オイルを使用してきた。Maerskの世界最大級のコンテナ船、MV *Emma Maersk*の場合、2007年以前には、1日当たり約300トンの燃料を費消し、最大1,000トンのCO<sub>2</sub>を排出したが、これは排出量で30番目に低い国にほぼ相当する。Maerskによれば、20%の減速航行を採用することで、1カイリ当たり40%の燃料節減となり、ここ数年でCO<sub>2</sub>削減の最も重要な措置となっているという。

記事参照：Slow Boats

<http://www.shiptalk.com/?p=5267>

## 2. 情報分析

### 2.1 2010 年上半期の海賊行為と船舶に対する武装強盗事案 ～IMB 報告書に見る特徴～

国際海事局 (IMB) は 7 月 15 日、クアラルンプールにある海賊通報センター (Piracy Reporting Centre) を通じて、2010 年上半期 (1 月 1 日～6 月 30 日) に世界で起きた海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。以下は、IMB 上半期報告書から見た、2010 年上半期の海賊行為と船舶に対する武装強盗事案の特徴を取り纏めたものである。

「海賊」(Piracy) と船舶に対する「武装強盗」(Armed Robbery) の定義については、IMB は、「海賊」については国連海洋法条約 (UNCLOS) 第 101 条「海賊行為の定義」に、「武装強盗」については、国際海事機関 (IMO) が 2001 年 11 月に IMO 総会で採択した、「海賊行為及び船舶に対する武装強盗犯罪の捜査のための実務コード」(Code of Practice for the Investigation of the Crimes of Piracy and Armed Robbery against Ships) の定義に、それぞれ準拠している。

#### 1. 発生 (未遂を含む) 件数と発生海域から見た特徴

通報された 2010 年上半期の発生件数は 196 件であった。その内、既遂が 101 件で、その内訳はハイジャック事案が 31 件で、乗り込み事案が 70 件であった。未遂事案は 95 件で、その内訳は発砲事案が 48 件、乗り込み未遂事案が 47 件であった。しかしながら、IMB は、この他にかなりの未通報事案があると見ており、船主や船長などに通報を呼びかけている。

2010 年上半期の発生件数は、2009 年同期の発生件数 240 件 (通年 406 件) に比し、かなりの減少となっている。2009 年は上半期だけで、過去 6 年間の各通年発生件数にほぼ匹敵する程の異常な激増ぶりであった。最近 6 年間の状況を見れば、2005 年同期が 127 件 (通年 276 件)、2006 年同期が 127 件 (同 239 件)、2007 年同期が 126 件 (通年 263 件)、2008 年同期が 114 件 (同 293 件) となっている。報告書によれば、2010 年上半期の発生件数の減少の主たる要因は、後述するように、アデン湾における発生件数が 2009 年同期の 86 件に比し 33 件に激減したことによる。

発生海域から見れば、196 件中、146 件が以下の 7 カ所の海域で発生している。多い順に見れば、ソマリア沖 (インド洋を含む) 51 件、アデン湾 33 件、インドネシア 16 件、南シナ海 15 件、紅海 14 件、マレーシア (東岸沖) 9 件、バングラデシュ 8 件となっている。表 1 は、最近 6 年間の各年上半期におけるアジア及びその他の多発海域での発生 (未遂を含む) 件数の推移を示したものである。

これによれば、「アフリカの角」周辺海域のアデン湾、ソマリア沖 (インド洋を含む)、紅海での発生件数が 98 件で、70% 近くを占めており、2009 年同期に比して減少しているとはいえ、依然として「アフリカの角」周辺海域における海賊襲撃事案の多さが際立っている。報告書によれば、アラビア海の 2 件を加え、ソマリアの海賊による 2010 年上半期の襲撃事案は 100 件に達し、その内ハイジャック事案が 27 件 (アデン湾 11 件、インド洋を含むソマリア沖 16 件) で、544 人の乗組員が人質となった。6 月末現在、依然 18 隻が拘留され、360 人の乗組員が人質になっている。(注：他の資料を加味した OPRF の調査では、アデン湾 15 件、インド洋を含むソマリア沖 20 件で、計 35 件となっている。別添：アデン湾・ソマリア沖ハイジャック事案の状況参照。)

表 1：最近 6 年間の各年上半期におけるアジア及びその他の多発海域での発生（未遂を含む）件数の推移

海 域	2010	2009	2008	2007	2006	2005
インドネシア	16	3	13	24	33	42
マラッカ海峡	1	2	2	2	3	8
マレーシア	9	9	6	6	9	2
フィリピン	2	1	4	1	2	
シンガポール海峡	1	2	2	3	3	6
タイ/タイ湾	1	1		2	1	1
南シナ海	15	7		1	1	4
ベトナム	7	5	3	3	1	3
バングラデシュ	8	5	7	5	22	8
インド	4	6	7	5	3	8
アデン湾*	33	100*	19*	7	9	4
ソマリア	51	44	5	17	8	8
紅海**	14					
ナイジェリア	6	13	18	19	7	7
タンザニア	1	5	7	7	1	2
アラビア海***	2	1		4	1	2
インド洋****		1				
オマーン*****		2				
<b>各年上半期合計</b>	<b>196</b>	<b>240</b>	<b>114</b>	<b>126</b>	<b>127</b>	<b>127</b>
<b>各年通年合計</b>		<b>406</b>	<b>293</b>	<b>263</b>	<b>239</b>	<b>276</b>

出典：2010 年上半期報告書 5～6 頁の表 1 から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含む。

注：\*；アデン湾、\*\*；紅海、\*\*\*；アラビア海、\*\*\*\*；インド洋、\*\*\*\*\*；オマーン、いずれもソマリアの海賊による。

アデン湾海域には各国海軍の戦闘艦が展開しており、これがこの海域における海賊襲撃事案の減少をもたらしている、と報告書は評価している。そして、この海域における海軍力のプレゼンスの継続を求めている。報告書は、海賊による襲撃事案減少のもう 1 つの大きな要因として、通航船舶による自衛行動と海運業界による海賊対処マニュアル、BMP（the Best Management Practices）の遵守を挙げている。報告書によれば、6 月から始まった南西モンスーンによって、モンスーンの影響を受けないアデン湾と紅海、特に南部海域やバブエルマンデブ海峡での事案が増えている。（別添資料参照）

一方、ソマリア東岸沖の状況について、報告書によれば、ソマリアの海賊による襲撃海域は、東が東経 69 度を超え、南が南緯 12 度にまで拡大している。これらの海域では、海賊は「母船」を使用していると見られ、一部の襲撃事案は沿岸から 1,000 カイリ以上離れた海域で発生している。このため IMB と MSCHOA（Maritime Security Centre, Horn of Africa）は、この海域を航行する船舶に対して、ソマリアに寄港しない船舶はソマリア沿岸から少なくとも 600 カイリ以上離れて、また南北航路の船舶には東経 60 度の海域を航行するよう慫慂している。南西モンスーンによってインド洋海域では海が荒れていることから、6 月には襲撃事案がなかった。（別添資料参照）

他方、表1に見るように、東南アジアでは、南シナ海における襲撃事案が2009年同期の7件（乗り込み6件、ハイジャック1件）から、15件（ハイジャック1件、乗り込み9件、発砲2件、乗り込み未遂3件）と倍増し、際立っている。南シナ海では、アナンバス諸島、ナトゥーナ諸島周辺海域が多発海域となっている。インドネシアでの発生件数も16件（既遂11件、未遂5件）で、2009年同期の3件（乗り込み1件、同未遂2件）から激増しているが、ほとんどの事案が停泊中あるいは錨泊中の船舶への乗り込みで、低レベルの強盗事案である。報告書によれば、多くの事案が未通報になっている。

## 2. 態様から見た特徴

表2はアジア及びその他の多発海域における2010年上半期の襲撃の態様を海域毎に示したものである。表3は、未遂を含む全事案における襲撃された時の船舶の状況について、地域毎に示したものである。

表2：アジア及びその他の多発海域における2010年上半期の襲撃の態様

海域	Actual Attacks		Attempted Attacks	
	Boarded	Hijacked	Fired Upon	Attempted Boarding
インドネシア	10	1		5
マラッカ海峡				1
マレーシア	5	2		2
フィリピン	1			1
シンガポール海峡	1			
タイ	1			
南シナ海	9	1	2	3
ベトナム	7			
バングラデシュ	8			
インド	4			
アデン湾*	1	11	13	8
紅海**			4	10
ソマリア		16	27	8
タンザニア	1			
ナイジェリア	3		2	1
アラビア海***				2
<b>合計</b>	<b>70</b>	<b>31</b>	<b>48</b>	<b>47</b>
<b>総計</b>	<b>196</b>			

出典：2010年上半期報告書8頁の表2から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含む。

注：\*；アデン湾、\*\*；紅海、\*\*\*；アラビア海、いずれもソマリアの海賊による。

表 3 : 2010 年上半期における海域毎に見た襲撃された時の船舶の状況

海 域	Actual			Attempted		
	B	A	S	B	A	S
インドネシア	2	8	1	1	2	1
マラッカ海峡						1
マレーシア		5	2		1	1
フィリピン		1				1
シンガポール海峡			1			
タイ			1			
中国		1				
南シナ海			10			5
ベトナム	1	5	1			
バングラデシュ	1	7				
インド		4				
アデン湾*			12			21
紅海**						14
ソマリア			16			35
アラビア海***						2
タンザニア		1				
ナイジェリア		2	1			
<b>合計</b>	<b>5</b>	<b>50</b>	<b>46</b>	<b>2</b>	<b>9</b>	<b>84</b>
<b>総計</b>	<b>101</b>			<b>95</b>		

出典：2010 年上半期報告書 9～10 頁の表 4、5 から作成。なお、合計件数は報告書の全ての対象海域を含む。

備考：B = Berthed, A = Anchored, S = Steaming

注：\* ; アデン湾、\*\* ; 紅海、\*\*\* ; アラビア海、いずれもソマリアの海賊による。

これらによれば、ソマリアの海賊による襲撃事案の特徴が良く分かる。ソマリアの海賊によるアデン湾・紅海、アラビア海及びインド洋を含むソマリア沖での事案は、未遂を含めて全て航行中 (steaming) の事案であり、「母船」や小型高速ボートで通航船舶を襲撃するソマリアの海賊の特徴を示している。一方、東南アジアの場合は、襲撃の態様としては乗り込み事案が多く、襲撃された時の船舶の状況については錨泊中 (anchored) が多いのが特徴である。南シナ海での事案の場合は、報告書によれば、航行中の船舶に夜間に乗り込み、乗組員の持ち物や船舶備品を盗む事案が多い。狙われる船舶としては、tug & barge が多いのが特徴である。

また、2010 年上半期で、港と錨地において 3 回以上の襲撃件数が通報されたのは 5 カ所で、計 24 件であった。これは 2009 年同期の 7 カ所、計 35 件から見れば、場所も件数も少なくなっている。報告書によれば、2010 年上半期の 5 カ所は、バングラデシュのチッタゴン 8 件、ペルーのカヤオ 5 件、ナイジェリアのラゴス 4 件、ベトナムのブンタオ 4 件、アイヴォリーコーストのアビジャン 3 件であった。

2009 年上半期に襲撃された（未遂事案を含む）船舶のタイプでは、未遂事案も含めて最も多かったのはケミカルタンカーで 39 隻、次いでコンテナ船が 33 隻、以下、ばら積み船 30 隻、一般貨物船 23 隻、原油タンカー 18 隻、漁船 12 隻、精製品タンカー 12 隻、タグ船 7 隻、LNG タンカー 4 隻、ダウ船 3 隻、冷凍船 3 隻、自動車運搬船 3 隻、Ro Ro 船 2 隻などとなっている。報告書によれば、ケミカル・精製品タンカー、コンテナ船、ばら積み船、一般貨物船が過去 6 年間のハイジャック船の大部分を占めている。ソマリアの海賊がハイジャックした船舶にはあらゆるタイプの船舶が含まれており、報告書は、彼らの襲撃は場当たりの、特定のタイプの船舶を狙っているわけではない、と指摘している。船舶のタイプで注目されるのは、4 月 4 日に韓国の船社が運航するマーシャル諸島籍船の VLCC、MT *Samho Dream* (319,000DWT) が、ソマリア沿岸東方 970 カイリのインド洋でソマリアの海賊にハイジャックされたことである。ソマリアの海賊による VLCC のハイジャックは、3 隻目となった。（該船は、2010 上半期報告書が公表された、7 月 15 日現在、依然拘束されたままである。）

表 4 は、2010 年上半期にアデン湾・ソマリア沖でハイジャックされた各種タイプの船舶の諸元である。この表に見るように、アデン湾・ソマリア沖においてハイジャックされやすい船舶は、満載時の乾舷が比較的 low（表は空荷の場合）、低速（15 ノット以下）で、乗組員の少ない（平均 20～25 人前後）船舶が平均的である。前出の VLCC、MT *Samho Dream* は 1 億 7,000 万米ドル相当のイラク原油を積載していた。

表 4 : 2010 年上半期のアデン湾・ソマリア沖における各種タイプのハイジャック船の諸元

Name (Location)	Type	Date	DWT	Freeboard (ft)	Speed (k)	Crew
<i>Pramoni</i> (A)	Chemical & Oil Tanker	1.1	19,996	11	15	24
<i>Asian Glory</i> (Sy)	Car Carrier	1.2	13,363	16	18.6	25
<i>Al Nisr Al Saudi</i> (A)	Products Tanker	3.1	5,136	3	13.5	14
<i>UBT Ocean</i> (M)	Chemical & Oil Tanker	3.5	9,224	8	13	21
<i>Frigia</i> (I)	Bulk Carrier	3.23	35,246	2	13	21
<i>Talca</i> (O)	Reefer	3.23	11,055	12	18	25
<i>Iceberg I</i> (A)	Ro Ro Vessel	3.29	3,960	1	14	24
<i>Samho Dream</i> (S)	VLCC	4.4	319,430	26	16	24
<i>RAK Afrikana</i> (Sy)	Ro Ro Vessel	4.11	7,561	3	12	26
<i>Voc Daisy</i> (A)	Bulk Carrier	4.21	47,189	15	14	21
<i>Marida</i> <i>Marguerite</i> (A)	Chemical & Oil Tanker	5.8	13,168	14	13	22
<i>Panega</i> (A)	Products Tanker	5.11	5,848	6	13.5	15
<i>Eleni P</i> (O)	Bulk Carrier	5.12	72,119	16	14.5	24
<i>Golden Blessing</i> (A)	Chemical & Oil Tanker	6.28	14,445	9	13	19

出典: U.S. Department of Transportation, Maritime Administration, Horn of Africa Piracy, List of Ships Seajacked から作成。なお、このリストは随時更新されている。

襲撃された船舶の船籍を見れば、2010年上半期の全事案196件中、最も多かったのはパナマ籍船で35隻(2009年同期40隻、通年69隻)、次いでリベリア籍船28隻(同22隻、同38隻)、以下、シンガポール籍船22隻(同15隻、同32隻)、マーシャル諸島籍船18隻(同18隻、同29隻)、マルタ籍船10隻(同16隻、21隻)、マレーシア籍船7隻(同1隻、同2隻)、アンチグア・バーブーダ籍船6隻(同12隻、同24隻)、香港籍船5隻(同12隻、同21隻)、インド籍船5隻(同4隻、同8隻)、台湾籍船5隻(同1隻、同2隻)などとなっている。なお、日本籍船は過去6年間、2008年(通年)に2隻、2007年(同)に1隻、2005年(同)に2隻あったが、2009年(同)には襲撃された船舶はなく、2010年上半期もなかった。

他方、襲撃された船舶の運用状況を国別に見れば(Countries where victim ships controlled / managed)、最も多かったのはシンガポールで31隻(2009年同期17隻、通年31隻)、次いでドイツで28隻(同38隻、同64隻)、次いでギリシャ17隻(同33隻、同59隻)、英国9隻(同7隻、同14隻)、日本8隻(同11隻、同16隻)、アラブ首長国連邦8隻(同5隻、同9隻)、台湾7隻(同2隻、同4隻)、マレーシア7隻(同1隻、同2隻)、韓国7隻(同6隻、同6隻)、香港6隻(同13隻、同20隻)などとなっている。

### 3. 人的被害の状況と使用武器の特徴

人的被害の状況について見れば、表5に示したように、ここ6年、乗組員が人質となる事案が大幅に増え、人的被害のほとんどを占めている。2010年上半期は597人で、2008年同期の3倍近い激増ぶりとなった、2009年同期の561人(通年1,052人)よりも増えている。一方、人的被害の発生場所から見れば、2つの海域に集中している。人質事案597人中、アデン湾が186人、ソマリアが358人で、「アフリカの角」周辺海域で544人となり、人質事案の大部分を占めている。人的被害の面からも、乗組員を人質に身代金要求事案が多い、ソマリアの海賊による襲撃事案の特徴を示している。他に人質事案が多かったのは東南アジアで、インドネシア10人、マレーシア19人、南シナ海22人であった。

表5：最近6年間の各上半期における乗組員の人的被害状況

状況	2010	2009	2008	2007	2006	2005
人質	597	561	190	152	156	31
誘拐	3	7	6	41	13	10
乗組員脅迫	9	6	4	3	9	2
乗組員襲撃	1	3	5	20	2	1
乗組員負傷	16	19	19	19	12	4
乗組員死亡	1	6	7	3	6	
行方不明		8	7			
<b>各年上半期合計</b>	<b>627</b>	<b>610</b>	<b>238</b>	<b>238</b>	<b>198</b>	<b>48</b>
<b>各通年合計</b>		<b>1,166</b>	<b>1,011</b>	<b>438</b>	<b>317</b>	<b>509</b>

出典：2010年上半期報告書11頁の表8から作成。

表6は、最近6年間の各上半期における全発生事案で、海賊が使用した武器のタイプを示したものである。これを見れば、銃器とナイフが海賊の主要武器である傾向は、ここ6年間ほとんど変化がない。他方、海賊の使用武器を地域毎に見れば、銃器使用事案100件中、アデン湾29件、紅海7件、ソマリア45件で、ソマリアの海賊による事案がほとんどを占めている。ここでも、AK-47強襲ライフル、RPG-7ロケット推進擲弾筒などで武装する、ソマリアの海賊の危険性が窺える。東南アジアの場合は、銃器よりもナイフが主流で、インドネシアが16件中、銃器1件、ナイフ5件、その他の武器1件、情報なし9件、マレーシアが9件中、銃器1件、ナイフ4件、情報なし4件となっている。南シナ海の場合は、15件中、銃器5件、ナイフ7件、情報なし3件となっており、東南アジアでは銃器の使用が多いのが特徴である。

表6：最近6年間の各上半期における全発生事案で海賊が使用した武器のタイプ

武器のタイプ	2010	2009	2008	2007	2006	2005
銃器	100	151	39	37	34	35
ナイフ	35	36	31	29	41	43
その他の武器	2		2	5	6	7
情報なし	59	53	42	35	46	42
<b>発生事案件数</b>	<b>196</b>	<b>240</b>	<b>114</b>	<b>126</b>	<b>127</b>	<b>127</b>

出典：2010年上半期報告書10頁の表6から作成。

(文責 上野英詞)

別添：海洋政策研究財団作成資料

アデン湾・ソマリア沖のハイジャック事案の状況

1. 2010年のハイジャック事案の状況 (2010年6月30日現在)

	船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船種	旗国
1	<i>Pramoni</i> (A)	1.1	2.25 (55)	24	Chemical & Products Tanker	Singapore
2	<i>Asian Glory</i> (Sy) <sup>1</sup>	1.1	6.11 (161)	25	Car Carrier	United Kingdom
3	<i>Faize Osamani</i> (S) <sup>1</sup>	1.6	2.1 (26)	14	Cargo Dhow	India
4	<i>Rim</i> (A) <sup>2</sup>	2.3	6.2 (119)	17	General Cargo	North Korea
5	<i>Ariella</i> (A) <sup>3</sup>	2.5	2.5 (Boarded)	25	Bulk Carrier	Antigua & Barbuda
6	<i>Abdul Razak</i> (A)	2.22頃		9	Bulk Carrier	India
7	<i>Al Nisr Al Saudi</i> (A)	3.1		14	Products Tanker	Saudi Arabia
8	<i>Sakoba</i> (T)	3.3		16	Fishing Vessel	Kenya
9	<i>UBT Ocean</i> (M)	3.5		21	Chemical & Oil Tanker	Marshall Islands
10	<i>Al Asa'A</i> (A)	3.18		9	Cargo Dhow	Yemen
11	<i>Frigia</i> (I)	3.23		21	Bulk Carrier	Malta
12	<i>Talca</i> (O)	3.23	5.10 (47)	25	Reefer	Bermuda
13	<i>Az Zabaniyah</i> (A)	3.24	4.5 (17)	12 (1)	Fishing Vessel	Yemen
14	<i>Vishva Kalyan VRL No.2315</i> (S)	3.26	4.11 (16)	15	Cargo Dhow	India
15	<i>Iceberg 1</i> (A)	3.29		24	Ro Ro Vessel	Panama
16	<i>Jin-chun Tsai No. 68</i> (日春財 68 号) (S)	3.30		14	Fishing Vessel	Taiwan
17	12 Indian Dhows (Sy)	3.30 前後	4 月中旬頃ま でに 10 隻解放	100 前後	Cargo Dhow	India
18	<i>Al-Barari</i> (S)	3.31		11	Bulk Carrier	Dubai
19	<i>Samho Dream</i> (S) <sup>4</sup>	4.4		24	VLCC	Marshall Islands
20	<i>Taipan</i> (S) <sup>5</sup>	4.5	4.5 (1)	15	Container Ship	Germany
21	<i>Yasin C</i> (K)	4.7	4.9 (2)	25	Bulk Carrier	Turkey
22	<i>RAK Afrikana</i> (Sy)	4.11		26	Ro Ro Vessel	St Vincent & Grenadines

	船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船種	旗国
23	3 Thai Fishing Vessels (I) <i>Prantalay No.11,12,14</i>	4.18		77	Fishing Vessel	Thailand
24	<i>Voc Daisy</i> (A)	4.21		21	Bulk Carrier	Panama
25	<i>Moscow University</i> (Ar) <sup>6</sup>	5.5	5.6 (1)	23	Oil Tanker	Liberia
26	<i>Tai Yuan 227</i> (Sy)	5.6		28	Fishing Vessel	Taiwan
27	<i>Marida Marguerite</i> (A)	5.8		22	Chemical Tanker	Marshall Island
28	<i>Al Dhafir</i> (A)	5.8		7	Fishing Vessel	Yemen
29	<i>Panega</i> (A)	5.11		15	Products Tanker	Bulgaria
30	<i>Eleni P</i> (O)	5.12		26	Bulk Carrier	Liberia
31	<i>Al Jawat</i> (A)	5.25	5.26 (1)	5	Cargo Dhow	Yemen
32	Fishing Vessel (A)	5.28		9	Fishing Vessel	Yemen
33	<i>QSM Dubai</i> (A) <sup>7</sup>	6.2	6.3 (1)	24	General Cargo	Panama
34	6 Fishing Vessel (A)	6.4	漁民 47 人は即日解放	47	Fishing Vessel	Yemen
35	<i>Golden Blessing</i> (A)	6.28		19	Chemical Tanker	Singapore

出典: "Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January – 30 June 2010," ICC International Maritime Bureau (IMB), July 15, 2010, pp.39-43. Somali Marine & Coastal Monitor (Ecottera International). Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information (Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department, U.S. Navy). EU NAVFOR Somalia HP. List of Ships Hijacked (U.S. Department of Transportation Maritime Administration). 及びその他の報道資料から作成。

備考: 上記表中の (A) は紅海を含むアデン湾、(Ar) はアラビア海、(O) はオマーン沖でのハイジャック事案を示す。インド洋海域については、(S) はソマリア沿岸東方沖、(K) はケニア沖、(M) はマダガスカル沖、(Sy) はセイシェル近海、及び (T) はタンザニア沖周辺でのハイジャック事案、(I) はこれら海域より遠隔のインド洋でのハイジャック事案を示す。船舶名の網掛けは IMB 報告書以外の資料による事案を示す。

注 1: *Faize Osamani* は、海賊の「母船」として使用されていたと見られる。該船は、1 月 29 日にソマリア沿岸を離れた MV *Asian Glory* と荒天のソコトラ島北東約 150 カイリの海域で 30 日に会合し、該船をハイジャックした 5 人の海賊は MV *Asian Glory* に乗り移り、該船を放棄した。この間、NATO 艦隊所属のデンマーク海軍フリゲート、HDMS *Absalon* が監視しており、海賊が該船を放棄した後、乗組員を支援した。(Trade Winds, February 2, EU NAVFOR Somalia, Press Release, February 2, and Ecottera International, February 4, 2010)

注 2: 該船は、リビアの White Sea Shipping の所有。MV *Rim* の乗組員は 6 月 2 日、海賊から該船を奪回した。乗組員は、海賊を取り押さえ、銃撃戦で海賊 5 人を射殺し、残りの 1 人を拘束した。一方、乗組員 1 人も重傷を負った。乗組員はその 2 日後、発電機に不具合があったため、他の海賊に再びハイジャックされることを恐れて、船長の要望により該船を放棄した。(Fairplay Daily News, June 7, and Trade Winds, June 16, 2010)

注 3: 該船は、インドネシアに向けて、アデン湾の安全回廊 (IRTC) を他の船舶と集団で航行中、ソマリアの海賊に乗り込まれた。該船は、救難信号を発信すると共に、海軍部隊が武力行使も行えるよう、自分達が船の居住区に閉じこもっていることを通報した。フランス海軍の哨戒機が 15 分以内に該船甲板上に海賊を視認し、NATO 艦隊所属のデンマーク海軍フリゲート、HDMS *Absalon* に通報した。同艦はヘリを発進させると共に、特殊部隊が該船に乗り込み、乗組員を救助した。同時に付近にいたロシア海軍駆逐艦、*Neustrashimy* からも特殊部隊が該船に乗り込み、海賊の小型ボート 1 隻を確保した。(EU NAVFOR Somalia, Press Release, February 5 and Trade Winds, February 5, 2010)

- 注4：マーシャル諸島籍船で、韓国の船社が運航するVLCC、MT *Samho Dream* (319,000DWT) は4月4日、1億7,000万米ドル相当のイラク原油を積載して、米国のメキシコ湾に向けて航行中、ソマリア沿岸東方970カイリのインド洋で、ハイジャックされた。該船の乗組員は、韓国人5人とフィリピン人19人である。ソマリアの海賊によるVLCCのハイジャックは、これが3隻目である。(Reuters, April 5, 2010)
- 注5：ドイツ籍船のコンテナ船、MV *Taipan* (12,612DWT) は4月5日朝、ジブチからモンバサ(ケニア)に向かって航行中、ソマリア沿岸から東方500カイリの海域で海賊に襲撃され、乗り込まれた。海賊に乗り込まれた時、該船の乗組員は、海賊対処要領、BMPに従って安全ルームに避難し、施錠した。彼らは、EU艦隊に通報する前に、該船のエンジンを停止し、航行不能にすることができた。オランダ海軍のフリゲート、HNMLS *Tromp* が現場海域に急行した。当初、同艦は、流血を回避するために海賊と交渉を試みたが、海賊は抵抗する意志を示したために、救出作戦の実施に踏み切った。同艦から発進したヘリで、6人の海兵隊員が該船に降下し、10人の海賊容疑者を拘束すると共に、13人の乗組員(ドイツ人2人、ロシア人3人、スリランカ人8人)を無事保護した。(EU NAVFOR Somalia, Press Release, April 5, 2010)
- 注6：リベリア籍船でロシアの船社所有のタンカー、MT *Moscow University* (106,500DWT) は5月5日、アデン湾東方350カイリの海域でハイジャックされた。該船の乗組員は23人のロシア人で、8万6,000トンの原油を積載して、紅海から中国に向けて航行中であった。ロシア海軍対潜駆逐艦、the *Marshal Shaposhnikov* は、MT *Moscow University* のハイジャックから約24時間後の6日朝、アラビア海を航行中のタンカーを強襲し、該船を解放すると共に、海賊を拘束した。乗組員が負傷者はいなかったが、海賊1人が射殺された。(Trade Winds, May 5, 6, 7, 2010) ロシア国防省によれば、10人の海賊容疑者は5月7日、ソマリア沿岸から350カイリの沖合で、武装解除された上、航法装備を持たないゴムボートに乗せられ、漂流状態で釈放された。国防省によれば、ボートは約1時間後にレーダーから消え、死亡したと見られている。(RIA Novosti, May 11, 2010)
- 注7：ドバイの船社所有でパナマ籍船の一般貨物船、MV *QSM Dubai* (15,000DWT) は6月2日、アデン湾でハイジャックされた。該船は、乗組員24人で、砂糖を積んで、ブラジルからソマリア北部のソマリーランドのベルベラ港に向かって航行中であった。(Trade Winds, June 2, 2010) ソマリアのプントランド自治区の治安部隊は6月3日、MV *QSM Dubai* を急襲し、該船を解放した。同自治区政府の運輸相によれば、海賊に降伏勧告をしたが、拒否され、しかもパキスタン人船長を殺害したことから、武力解放を決めたという。解放作戦では、2人の治安部隊要員が負傷したが、最終的に7人の海賊全員を拘束した。(AP, June 3, 2010)

## 2. 2009年のハイジャック事案中、2010年1月以降の解放状況

2010年6月30日現在

	船名	発生日	解放日 (拘束日数)	乗組員 (死亡)	船種	旗国
1	<i>Win Far 161</i> (Sy)	4.6	2.11 (301)	30 (3)	Fishing Vessel	Taiwan
2	<i>Shгаа-Al-Madhi</i> (A)	4.8		13	Fishing Vessel	Sudan
3	<i>Al Khaliq</i> (Sy)	10.22	2.9 (110)	24	Bulk Carrier	Panama
4	<i>Lynn Rival</i> (Sy)	10.23		2	Yacht	United Kingdom
5	<i>Thai Union 3</i> (Sy)	10.29	3.7 (130)	25	Fishing Vessel	Thailand
6	<i>Filitsa</i> (Sy)	11.11	2.1 (81)	22	General Cargo	Marshall Islands
7	<i>Theresa VIII</i> (S)	11.16	3.16 (120)	28	Chemical Tanker	Virgin Island
8	<i>Red Sea Spirit</i> (A)	11.20			General Cargo	Panama
9	<i>Maran Centaurus</i> (Sy)	11.29	1.18 (49)	28	VLCC	Greece
10	<i>Shazaib</i> (Sy)	12.6	1.2 (27)	29	Fishing Vessel	Pakistan
11	<i>Nefeya</i> (S)	12.6		13	Cargo Dhow	India
12	<i>Al Mahmoud 2</i> (A)	12.18	1.8 (21)	15	Cargo Vessel	Yemen
13	<i>Socotra 1</i> (A)	12.25		6	Cargo Dhow	Yemen
14	<i>Navios Apollon</i> (Sy)	12.28	2.28 (62)	19	Bulk Carrier	Panama
15	<i>St James Park</i> (A)	12.28	5.13 (128)	26	Chemical Tanker	United Kingdom

出典 : "Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January – 31 December 2009," ICC International Maritime Bureau (IMB) , January 18, 2010, pp.60-66, p.72. "Piracy And Armed Robbery Against Ships: Report for the Period, 1 January – 30 June 2010," ICC International Maritime Bureau (IMB) , July 15, 2010, pp.39-43. Somali Marine & Coastal Monitor (EcoTerra International) . Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information (Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department, U.S. Navy) , List of Ships Hijacked (U.S. Department of Transportation Maritime Administration) . 及びその他の報道資料から作成。

備考 : 上記表中の (A) はアデン湾、(O) はオマーン沖、(S) はソマリア沖、(K) はケニア沖・(M) はマダガスカル沖・(Sy) はセイシェル近海・(T) はタンザニア沖のインド洋でのハイジャック事案を示す。船舶名の網掛けはIMB2009年年次報告書以外の資料による事案を示す。

## 2.2 2010年上半期のアジアにおける海賊行為と武装強盗事案 ～ReCAAP 報告書から～

アジア海賊対策地域協力協定 (Regional Cooperation Agreement on Combating Piracy and Armed Robbery against Ships in Asia) に基づいて設立された、ReCAAP 情報共有センター (ISC) は7月27日、2010年上半期 (2010年1月から6月末まで) にアジアで発生した海賊行為と船舶に対する武装強盗事案に関する報告書を公表した。国際海事局 (IMB) の同種の報告書が全世界を対象としているのに対して、ReCAAP 報告書は、アラビア海からユーラシア大陸南縁に沿って北東アジアに至る海域を対象海域としている。また、IMB が民間船舶や船主からの通報を主たる情報源としているのに対して、ReCAAP の情報源は、加盟14カ国に各1カ所、これに香港の1カ所を加えて、15カ所の Focal Point とシンガポールにある ISC と結ぶと共に、また Focal Point が相互に連結することで構成される、Information Sharing Web である。各国の Focal Point は沿岸警備隊、海洋警察、海運・海事担当省庁あるいは海軍に置かれている (日本の場合は海上保安庁)。また、各国の Focal Point は、当該国の法令執行機関や海軍、Port Authorities や税関、海運業界など、国内の各機関や組織と連携している。更に、国際海事機関 (IMO)、IMB やその他のデータを利用している。(なお、ReCAAP とは Regional Cooperation Agreement Against Piracy の頭字語である。ReCAAP の加盟国は、インド、スリランカ、バングラデシュ、ミャンマー、タイ、シンガポール、カンボジア、ラオス、ベトナム、ブルネイ、フィリピン、中国、韓国及び日本の14カ国。マレーシアとインドネシアは未加盟。)

以下は、ReCAAP 報告書から見た、2010年上半期のアジアにおける海賊行為と船舶に対する武装強盗事案の態様と傾向である。

### 1. 「海賊」と「船舶に対する武装強盗」についての ReCAAP の定義

「海賊」 (piracy) と「船舶に対する武装強盗」 (armed robbery against ships) とは、ReCAAP・ISC の定義によれば、「海賊」については国連海洋法条約 (UNCLOS) 第101条「海賊行為の定義」に従って、「船舶に対する武装強盗」については、国際海事機関 (IMO) が2001年11月に IMO 総会で採択した、「海賊行為及び船舶に対する武装強盗犯罪の捜査のための実務コード」 (Code of practice for the Investigation of the Crimes of Piracy and Armed Robbery against Ships) の定義に従って、それぞれ ReCAAP 協定第1条で規定している。

### 2. 発生 (未遂を含む) 件数と発生海域から見た特徴

報告書によれば、2010年上半期の発生件数は71件で、その内、既遂が58件、未遂が13件であった。月毎の発生件数を見れば、1月が12件 (既遂9件、未遂3件)、2月が7件 (6件、1件)、3月が7件 (6件、1件)、4月が16件 (14件、2件)、5月が10件 (8件、2件)、6月が19件 (15件、4件) となっている。2010年上半期の発生件数71件は、2009年同期の43件 (既遂38件、未遂5件) に比して、大幅増となっている。

表1は、過去5年間の各上半期における ReCAAP の対象海域における発生件数を示したものである。これによれば、過去3年間の発生件数は全体として減少傾向にあったが、2010年上半期は大幅増になった。これは、バングラデシュ、インドネシア、南シナ海、そしてベトナムにおける事案の増加によるものである。報告書によれば、南シナ海では、アナンバス (Anambas) 諸島、ナトゥー

ナ (Natuna) 諸島、マンカイ (Mangkai) 諸島及びスビ・ビサル (Subi Besar) 諸島周辺海域が襲撃事案の多発海域で、2010年上半期には11件(既遂9件、未遂2件)発生しており、しかも7件が6月に発生している。(ReCAAP ISCは6月18日、この海域における襲撃事案の多発に関する特別レポートを発出している。OPRF 海洋安全保障情報月報 2010年6月号 1.1 海洋治安参照。)その内、7件がマレーシアのアナンバス諸島とマンカイ諸島周辺海域で、4件がインドネシアのナトゥーナ諸島とスビ・ビサル諸島周辺海域で発生している。ベトナムでは、南部のブンタウ (Vung Tau) 錨泊地で6件発生している。

表1：過去5年間の各上半期における地域別発生件数

	2010.1-6		2009.1-6		2008.1-6		2007.1-6		2006.1-6	
	既遂	未遂								
東アジア										
中国	1									
小計	1									
南アジア										
アラビア海							1	3		
バングラデシュ	9	2	4	1	6	2	5		16	8
ベンガル湾	1						1			
インド	5		4		7	1	3		1	
小計	15	2	8	1	13	3	10	3	17	8
東南アジア										
タイ湾	1									
インドネシア	12	6	3	2	9	1	18	5	23	9
マレーシア	9		8	1	4		4	1	9	1
ミャンマー			1							
フィリピン	1		2	1	3	1		1	1	
南シナ海	10	3	7		3	1	1	1	3	
マ・シ海峡	2	2	3		1	3	1	1	3	1
タイ			1				1		1	
ベトナム	7		5		3		3		2	
小計	42	11	30	4	23	6	28	9	42	11
計	58	13	38	5	36	9	38	11	60	19
総計	71		43		45		49		79	

出典：ReCAAP Half Yearly Report (January 1, 2010 – June 30, 2010), p.16, Table 3 より作成

### 3. 発生事案の重大度の評価

ReCAAPの報告書の特徴は、既遂事案の重大度 (Significance of Incident) を、暴力的要素 (Violence Factor) と経済的要素 (Economic Factor) の2つの観点から評価し、カテゴリー分けをしていることである。

暴力的要素の評価に当たっては、①使用された武器のタイプ（ナイフなどよりもより高性能な武器が使用された場合が最も暴力性が高い）、②船舶乗組員の扱い（死亡、拉致の場合が最も暴力性が高い）、③襲撃に参加した海賊 / 武装強盗の人数（この場合、数が多ければ多いほど暴力性が高く、また組織犯罪の可能性もある）を基準としている。

経済的要素の評価に当たっては、被害船舶の財産価値を基準としている。この場合、乗組員の現金が強奪されるよりも、該船が積荷ごとハイジャックされる場合が最も重大度が大きくなる。

以上の判断基準から、報告書は以下のようなカテゴリー分けをしている。

Category	Significance of Incident
CAT 1	Very Significant
CAT 2	Moderately Significant
CAT 3	Less Significant

表 2 は、過去 5 年間の各上半期における既遂事案をカテゴリー分けしたものである。これによれば、CAT-1 の事案はこの 5 年間、ほぼ同じ件数で推移している。また、事案の半分以上が CAT-3 であるのも同じである。一方、CAT-2 事案の件数はこの 2 年間増加している。報告書によれば、2010 年上半期の CAT-2 事案 22 件の内、半分の 11 件が南シナ海とインドネシアのマンカイ諸島海域で発生している。CAT-1 事案 3 件は、いずれも南シナ海におけるタグ&バージのハイジャック事案である。

表 2 : 過去 5 年間の各上半期におけるカテゴリー別既遂事案件数

	2010.1-6	2009.1-6	2008.1-6	2007.1-6	2006.1-6
CAT 1	3	3	3	2	2
CAT 2	22	16	7	6	22
CAT 3	33	19	26	30	36

出典 : ReCAAP Half Yearly Report (January 1, 2010 – June 30, 2010) , p.15, Chart 2 より作成。

暴力的要素の評価については、報告書によれば、まず使用武器のタイプを見れば、2010 年上半期の全事案 58 件中、ナイフやナタあるいは鉄パイプなどのその他も武器が 28 件で最も多く、次いで銃とナイフが 9 件、より高性能の武器が 1 件、通報なしが 20 件であった。こうした傾向は過去 5 年間同じだが、2010 年上半期のナイフやナタあるいは鉄パイプなどのその他も武器 28 件は過去 5 年間で最も多くなっている（2006 年同期 24 件、2007 年同 16 件、2008 年同 12 件、2009 年同 14 件）。また、銃とナイフ 9 件も、これまで最も多かった 7 件（2006 年、2008 年、2009 年各同期）よりも多くなっている。

該船乗組員の扱いについては、2010 年上半期では、拉致と船外遺棄 1 件、船外遺棄 1 件、そして人質事案 11 件であった。報告書によれば、拉致と船外遺棄 1 件は 2 月 6 日のタグ&バージのハイジャック事案で、マレーシア東岸のティオマン島周辺海域で発生した CAT-1 事案である。この事案では、機関長が拉致され、残りの乗組員は救命ボートで船外に遺棄されたが、その後救出された。船外遺棄 1 件は 4 月 27 日にインドネシアのビンタン島周辺海域で発生した CAT-1 のタグ&バージのハイジャック事案で、乗組員は救命ボートで船外に遺棄されたが、その後救出された。

海賊／武装強盗の人数については、2010年上半期の既遂事案58件中、1～6人グループが41件、7～9人グループが11件、9人以上のグループが6件であった。過去5年間、1～6人グループが大部分を占めている。報告書によれば、9人以上のグループが襲撃した6件の内、バングラデシュのチッタゴン港と錨泊地で発生した事案が3件で、内、2件はCAT-2、1件はCAT-3であった。他の3件はマレーシア東岸の南シナ海での事案で、内、1件はCAT-1、他の2件はCAT-2であった。

経済的要素については、2010年上半期の既遂事案58件中、該船のハイジャック/行方不明が3件、乗組員の現金・所有物盗難が13件、船舶の備品・エンジン部品の盗難が29件、その他の固定されていない救命ボートなどの備品の盗難が1件、通報なしが12件であった。報告書によれば、ハイジャック/行方不明の3件はCAT-1事案で、いずれもタグ&バージがハイジャックされたが、その後、タグボートは発見され、乗組員も救助されている。過去5年間の傾向を見れば、乗組員の所持品の盗難や、該船の備品・エンジン部品の盗難などの事案が多いのが、ReCAAP対象海域の海賊事案の全般的な特徴となっている。貨物の強奪や該船のハイジャックは全体に占める割合は非常に小さく、この点で、ソマリア・アデン沖の海賊事案とは対照的である。

#### 4. 態様から見た特徴

過去5年間の上半期の全事案について、襲撃された時の該船の状況を示したのが表3である。

表3：過去5年間の各上半期の全事案における襲撃された時の該船の状況

該船の状況		2010.1-6	2009.1-6	2008.1-6	2007.1-6	2006.1-6
既遂事案	錨泊・停泊	37	21	22	31	37
	航行中	21	17	14	7	23
未遂事案	錨泊・停泊	6	3	3	6	11
	航行中	7	2	6	6	8
計		71	43	45	50	79

出典：ReCAAP Half Yearly Report (January 1, 2010 – June 30, 2010), p.20, Table 5 より作成。

報告書によれば、襲撃された時の該船の状況を見れば、停泊中・錨泊中に襲撃された事案は、船内の備品などが盗まれるCAT-3事案が多いのがこれまでの傾向である。2010年上半期の停泊中・錨泊中の既遂事案37件中、29件がCAT-3で、CAT-2事案は8件であった。この点でも、ReCAAP対象海域の海賊事案の全般的な特徴を反映しているといえよう。他方、航行中に襲撃された既遂事案21件の内、CAT-1が3件、CAT-2が14件であった。CAT-1事案3件は、前述のタグ&バージのハイジャック事案である。

一方、2010年上半期に襲撃された船舶のタイプについて見れば、全71件中、最も多かったのは各種タンカー（ケミカル、精製品、LPG、原油）で25隻、次いでコンテナ船・ばら積船が各12隻、一般貨物船が10隻、タグ&バージが9隻、以下、漁船・トロール漁船、パイプ補給船、ローロー貨物船が各1隻であった。2006年上半期はばら積船が最も多かったが、2007年からの4年間は各種タンカーが最も多く襲撃されている。報告書によれば、各種タンカーが襲撃された事案25件中、19件が既遂事案で、内9件がCAT-2事案で、1件を除いて、ナイフや長刀などを持った6人以上の武装強盗に襲撃され、乗組員の現金や船舶の備品など盗まれた事案であった。他の1件は、ベトナムのブンタウ錨泊地で銃で武装した2人の強盗に襲撃され、積荷の塗料が盗まれた事案であった。（文責 上野英詞）

## 海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F  
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)